

第5「放課後子供教室推進事業」 の実践事例 （実施市町の取組）



(放課後子供教室)

市町村名	熊谷市			
実施教室数	29 教室	対象学校数	29 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	23 教室	コーディネーター数	29 人
	うち連携型	5 教室	平均年間開催日数	19 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	盆踊り大会に向けた練習会（別府ふれあいスクール）				
----------	--------------------------	--	--	--	--

登録児童数	333 人	登録スタッフ数	29 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	-------	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 地域の諸団体の協力を得て活動を行っている。今年度は、青少年健全育成市民会議別府支部、自治会、公民館、長寿会、子ども会、JA女性部別府支部、別府沼を考える会、PTA、児童クラブ等の代表者が中心になって運営委員会を構成している。
- 熊谷市放課後子ども総合プランを受け、平日開催の教室を増やしている。その場合、活動場所を小学校内にすることで、同じ校内にある児童クラブの児童が参加しやすいようにしている。
- 本市は2学期制のため、秋休みがある。その秋休み（平日）には、終日の事業を開催し、子供の居場所を拡充することで、共働き世帯の一助となるようにしている。
- 体験型の活動を充実させ、季節に応じた伝統的な行事に取り組んだり、地域の行事に参加したりしている。地域の行事に参加する際には、事前に練習や準備を入念に行えるように活動計画を立て、どの児童も自信をもって参加できるようにしている。

取組内容

(1) 実施内容

地域の盆踊り大会に参加するために、平日の授業終了後に体育館で練習会を開催した。

(2) 練習の様子

講師に民舞悠楽会を招いた。盆踊りを初めて踊る児童もいたが、回を重ねるごとに上達していった。講師の方々が褒めながら指導してくださるので、はりきって練習する児童の姿が見られた。

(3) 盆踊り大会当日の様子

どの児童も練習の成果を発揮していた。保護者や地域の方から、「踊りが上手だね」と褒められることで、児童は自信をもち、地域の方との交流を深めていた。



【盆踊り大会に向けた練習会】

成果

- 運営委員会、コーディネーター会議等でのきめ細やかな準備により、充実した活動ができている。地域で子供たちを育てていこうという温かな雰囲気の中、児童は地域とのつながりを深めている。
- 地域の行事に参加することは、児童が自己肯定感を高めることにつながっている。それは、より多くの大人に自分たちの取組を認めてもらう経験を積むことができるからである。
- 地域の諸団体の協力を得て事業が行われるため、家庭と地域のつながりを生み出している。



【地域の行事「キャンドルナイト in 別府」の様子】

市町村名	川口市			
実施教室数	21 教室	対象学校数	21 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	12 教室	コーディネーター数	26 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	20 日
	うちその他	9 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	地域人材を活用した取組（戸塚南どれみふぁ広場）				
登録児童数	143 人	登録スタッフ数	54 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 戸塚南どれみふぁ広場は、登録している子供の人数が多いため、子供たちを6つのチームに分けている。子供はチームごとに異なる色のリストバンドを着用し、活動している。
- スタッフには地域人材が多いため、特技を持った専門的な講師に関する情報も集まりやすい環境となっている。地域の身近な専門家が様々な機会に講師やスタッフとして参画している。

取組内容

- 専門的な特技を持つ地域人材を活用したプログラムも取り入れている。県内在住のギネス記録保持者による縄跳び教室や、川口市ならではのベーゴマ教室等も実施した。なお、川口市は、鋳物製ベーゴマを唯一作っている街であることから、ベーゴマ名人によるベーゴマ教室が広く実施されている。この教室を機会にベーゴマ好きな子供が増えている。
- ボールを扱うプログラムについては、正しい投げ方等を練習し、試合のルールを教えた後に大会を行った。応援する子供も試合に参加している自覚を持てるよう工夫している。
- 近年の子供の体力低下に対して、全身を動かすようなプログラムを積極的に取り入れ、縄跳びやボール投げ等は年間を通して実施した。



【縄跳び教室】



【ベーゴマ教室】

成果

- スタッフが毎年継続的に参画しているため、子供は自らの暮らす地域の大人と顔見知りとなり、普段から挨拶を交わす関係を築けている。加えて、地域コミュニティの活性化や防犯対策にも繋がっている。
- チームが学年を超えて編成されているため、上級生は下級生の手本となるよう責任感を持つとともに、積極的に手伝いや指導に参加するようになった。
- 子供たちは1年間同じチームメンバーで活動するため、異学年同士の交流がより促進され、仲間を大切にす協力意識が芽生えた。
- 普段何気なく遊んでいる縄跳びやベーゴマでも、圧倒的な知識や技術を目の当たりにすることで、その遊びの魅力を再発見することができ、子供の学びの幅を広げることができている。

(放課後子供教室)

市町村名	行田市			
実施教室数	4 教室	対象学校数	4 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	1 教室	コーディネーター数	4 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	26 日
	うちその他	3 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	学校との連携、他教室の実践を生かしたアイデアあふれる活動の展開 (太田東小学校わくわくクラブ)				
登録児童数	28 人	登録スタッフ数	6 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 学校に隣接する地域文化センターを活動拠点とし、公民館施設活用型の新たなモデルとして今年度5月から開設した。学校跡地に建てた施設という好条件も重なり、外遊び用の敷地、活動拠点となる小ホールなど教育環境を有効に活用しながら活動している。
- 開設の太田東小学区には、学童保育室が未設置であったため、より多くの子供たちに放課後の居場所を提供する本事業の必要性が高いといえる。こうした中、全ての子供たちが同じように本事業に参加してもらえるよう、学童保育室に通う子供たちの活動後の送迎について、保護者、学校、関係機関で調整を図った。その結果、市のファミリー・サポート・センター事業を活用することで、活動終了後の各学童保育室への参加児童の移動が可能となり、問題を解決することができた。
- 指導にあたる教育活動サポーターは、地域に根ざした学識経験者、学校応援団の方々から選出し、コーディネーターを中心として本事業の今後の継続を意識したメンバー構成とした。特に、今年は開設初年度ということもあり、活動時には、事務局の見届けとサポートを毎回行っている。

取組内容

(1) 学校の教育活動と連携した実践

学校の生活科で植えたサツマイモの苗を有効活用し、太田東小わくわくクラブでの活動計画に盛り込んだ。特に、廃材となる苗を活動日に合わせて十分に乾燥させて本事業でクリスマスリースの骨組みとして活用した。苗の編みこみから飾りつけまで2週に渡っての活動となったが、子供たちは、季節感のある秋の実やきれいな材料を使ったリースづくりに熱中していた。



【サツマイモ苗を使ったリース】

(2) 他校の事例や新しいアイデアを取り入れた実践

5月からの開設に当たっては、事前にスタッフの打合せを十分に行い、他校の活動事例を参考にした活動を計画した。活動レシピ集を活用した実践に加え、新たに考案したアイデアから子供たちにとって魅力的な活動を展開していた。特に、活動拠点となる小ホールを使ったへびジャンケンリレーやじゅうたんトンネルくぐりは大変好評だった。



【じゅうたんトンネルくぐり】

成果

- 活動拠点となる地域文化センターには広々とした小ホールのスペースがあるため、子供たちの様々な活動に対応でき、毎回の活動内容の幅も広がった。
- 保護者や子供たちからは、このわくわくクラブの事業の実施に感謝する声が多数聞かれた。
- 学校までのお迎えや活動の見届けなど事務局としてのサポートを毎回行った結果、教育活動サポーターの皆様と一体となった充実した活動が展開できた。



【広々とした小ホールの活動スペース】

市町村名	秩父市			
実施教室数	13 教室	対象学校数	13 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	8 教室	コーディネーター数	13 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	245 日
	うちその他	5 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	クリスマス会（大田小ふれあい学校）				
登録児童数	20 人	登録スタッフ数	3 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- クリスマスやお正月のほか、地域のお祭りなど季節や行事に応じて、子供たちが楽しみながら参加できるプログラムを実施している。
- 同一敷地内に設置されている大田学童保育室の子供たちとの共通の遊びや、創作活動などを積極的に活動プログラムに取り入れることにより、様々な学年の児童の交流や多様な体験活動を支援している。



【お楽しみ会】

取組内容

- クリスマス飾りの作成
クリスマスツリーとサンタクロースの飾りを作成し、教室内に装飾を行った。飾りは、教室スタッフの指導のもと、子供たちが楽しみながら作成した。
- クリスマスお楽しみ会の実施
クリスマス飾りを作成した後は、お楽しみ会を開き、ゲームなどを通して、子供たちの交流を深めた。



【クリスマス飾りの展示】

成果

- タイムリーなイベントを実施することで、子供たちの季節や行事に関する興味関心を深めることができている。
- 子供たちからは「近所に一緒に遊べる友達がないので、ふれあい学校で友達と活動できてよかった」など、様々な学年同士で学習や遊びを行うことにより、望ましい人間関係を築く場となっている。
- 保護者からも、「不審者や交通事故を心配しないで預けられるのでよかった」として、下校時における不安が軽減したという声が寄せられている。



【クリスマス飾りづくり】



【子供たちの交流の様子】

(放課後子供教室)

市町村名	所沢市			
実施教室数	11 教室	対象学校数	11 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	2 教室	コーディネーター数	11 人
	うち連携型	4 教室	平均年間開催日数	186 日
	うちその他	5 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	季節に応じたイベント（北小学校ほうかごところ）
----------	-------------------------

登録児童数	361 人	登録スタッフ数	10 人	児童クラブ連携状況	連携型
-------	-------	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 北小学校ほうかごところは、主に学校の給食のある日の放課後に活動している。宿題や読書といった学習やサッカーやドッジボール、なわとびなどの運動、カルタ、ボードゲームなどの遊びが行われ、子供たちは思い思いの活動を楽しんでいる。このような通常の活動に加え、季節に応じたイベントなどを企画し、多彩なプログラムを実施している。
- スタッフ等の人材は、運営委員会の発掘による地域ボランティアや小学校と連携している近隣大学・高校の学生ボランティアによって確保されている。
- 学校との連携をはじめとし、卒業生、保護者の方々が遊びに加わる。参加者が多い懇談会等の日には、地域の方々がボランティアとして支援してくださっている。
また、保護者には、保護者会やお便り等を通して、理解と協力を呼びかけている。

取組内容

(1) 季節に応じたイベント

夏のイベント『おいでよ！夏祭り』では、水遊び体験を実施した。普段の学校生活や家庭ではなかなか体験することができない水遊びという活動に、子供たちはとても楽しんでいる様子だった。

冬のイベント『いっぱい動いて遊んじゃおう！』では、冬の寒さを吹き飛ばすために、体育指導員の方による集団での体を使った遊びを行った。用具の準備が必要なく、体を動かして子供の輪を広げることができた。今後も季節を考えたイベントを計画し、実施していきたい。

(2) 毎月開催のイベント

毎月、地域の方々に遊びを教えていただく「将棋の日」や「卓球の日」も設けている。このように、定期的に、継続したプログラムを実施することで、子供たちと地域の方々との交流を図ることができている。



【図書室でのカルタ取り】



【冬のお楽しみ会】

成果

- 通常の活動に加え、季節に応じたイベントなどを実施することで、活動の充実を図っている。また、通常の活動時よりも参加児童数が多く、大変好評である。
- イベント時は、通常の活動時よりも異学年の交流が盛んとなり、子供たちの社会性・協調性が育まれている。
- スタッフは、子供たちを温かく見守る存在であり、よき支援者として活躍している。
- 保護者からは、「ほうかごところは子供たちが安全で楽しく居られる場所で助かっている。」「ほうかごところのおかげで、子供に一人で留守番をさせずに済んだり、バスケットボールに興味を持ち、外遊びの時間が増えたりしていて、とてもありがたい。」などの感想が寄せられている。

市町村名	東松山市			
実施教室数	6 教室	対象学校数	6 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	6 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	58 日
	うちその他	6 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	篠風鈴づくり（青鳥小学校放課後子供教室）				
登録児童数	28 人	登録スタッフ数	6 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 身近な材料（自然に生えている篠（しの竹））を利用し、普段使用することが少ないキリやテグス（つり糸）などを用いた工作体験をした。
- 完成した作品の音色が、風の強弱で変化する様子を体験し、物づくりの楽しさを体験した。
- 作業経験をしているスタッフが多いため、固定する台の作成など、事前準備をきちんと行い、安全に取り組めるよう工夫した。
- 毎年行っているイベントで、教室の特徴的なものとして定着している。

取組内容

(1) 実施内容

乾燥した篠（しの竹）を利用した風鈴づくり

(2) 事前準備

前年度、近くの河原で篠を採取して枝を取り、乾燥させておく。事前に、太さを揃えて4種類の長さに切り揃え、キリで穴をあけるための、篠を固定する台を作成した。班ごとにスタッフを配置しケガ等の防止対策をした。

(3) 当日について

- 4班に分け、スタッフを配置し、作業に当たった。
- 風鈴作りは、異なる篠を4本用意し、節の部分にキリで穴をあける。爪楊枝にボンドでテグスをつけ、篠にあけた穴に通し固定する。同様につきす側にも3カ所穴をあけ、糸を通し、短冊にテグスをつける。真ん中の篠にキリで穴をあけ、テグスを通してつるす。乾いたら、爪楊枝のはみ出した部分をハサミやカッターで切る。短冊に模様を描く。作業工程が長く、材料を乾燥させる時間も必要なため、全工程を3回に分けて行った。
- キリやカッター等の使用時は、スタッフが手伝いながら作業を進めた。
- 完成した作品を展示し、みんなで風にそよいで鳴る風鈴の音色を楽しんだ。



【キリを使用し穴をあける作業】

成 果

- 篠から風鈴ができる体験により、身近な素材を活用した作品作りに興味を抱く子供が多くなった。以後、割りばし鉄砲や牛乳パックの鉛筆立て、ビニールの買い物袋を使った凧を製作した。
- 作業工程が長いので、参加児童（1年生～3年生）が作成するには、多少難しい内容であったが、最後まで作品を仕上げる根気強さを養うことができた。
- 班別に学び合い、互いに教え合うことで、作品を作り上げる喜びを味わうことができた。
- 初めて使用する道具（キリ等）を用いることで、作業工程で様々な体験ができた。
- 参加児童の保護者からは、作品を家に飾り、音色を楽しんだとの感想をいただいた。



【風鈴の音色を楽しむ子供たち】

(放課後子供教室)

市町村名	春日部市			
実施教室数	15 教室	対象学校数	15 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	14 教室	コーディネーター数	18 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	10 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	安心安全な居場所づくり (幸松っ子くらぶ)				
登録児童数	88 人	登録スタッフ数	5 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

「幸松っ子くらぶ」は、平成21年度に開講し、講座中心に活動していたが、平成26年度より、児童が放課後に安心安全に過ごせる場所と環境を提供することを目的とした、主に児童の自由遊びを見守る活動に変更し運営している。

また、「幸松っ子くらぶ」は、1度登録すれば、概ね月に2回ずつ開催する教室に自由に参加できるようにしているため、煩雑な手続きが少なくなり、参加する側、運営する側の負担感も軽減している。

取組内容

児童は、放課後に受付し各自宿題を済ませ、その後は読書・折り紙・ゲーム（パズル、オセロ、将棋等）・工作をして基本的に自由に過ごしている。また、地元大学生による学習指導や、スタッフや地元住民、PTAによる見守りも行っている。

また、お神楽保存会によるお神楽教室も、希望すれば自由に参加可能である。また、夏休み期間中の習字やプラバン作り、不定期で行われる忍者修行など児童が興味を持って楽しめる特別講座も開催している。



【大学生による学習指導】

成果

見守り中心の活動にしたことで、スタッフの負担も減少し、また、どの参加者へも間口を広く持つことで、児童はもちろん、児童を支える側も参加しやすい環境となっている。大学生に加えて、最近では中学生も時折教室を訪れ、宿題の指導や自由遊びの相手となって児童に喜ばれている。大学生たちの協力は、大きな力となっており、学生にとっても、よき経験・学びの場となっている。

スタッフは、児童が自由遊びのなかで、あるもので工夫しながら工作し、子供らしい遊びを発見して楽しい時間を過ごしている様子を見て、活動の素晴らしさを実感している。

また、お神楽教室で指導を受けた児童4名が、平成28年春日部夏祭りの山車に乗り神楽太鼓を演奏するなど、実り多い貴重な体験となっている。



【お神楽教室】

市町村名	狭山市			
実施教室数	16 教室	対象学校数	15 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	8 教室	コーディネーター数	2 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	13 日
	うちその他	8 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	「ナイト・ツアー in 智光山」（柏原子ども教室 はらっこ）				
登録児童数	80 人	登録スタッフ数	13 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 地域の豊かな環境（智光山公園：総面積53.8ヘクタール、東京ドーム約11個分の広大な敷地に、アカマツ、コナラ、クヌギなど武蔵野の豊かな自然をそのまま生かして作られた大規模な都市公園）を活用した。
- 夏休みの思い出となる親子で参加する企画とした。
- 綿密な準備と、スタッフ、指導者、保護者、ボランティアの連携により安全に努めた。具体的には、参加者の服装（長そで、長ズボン、運動靴）の徹底と、水分補給等の注意喚起を行った。また、ナイトハイクの際はスタッフが最後尾につき、はぐれないよう配慮した。

取組内容

＜事業概要＞

「はらっこ」は、遊びや体験をとおして「心豊かでたくましく育って欲しい」との願いから、柏原小学校の児童を対象に、学校と地域・保護者の協力を得て、様々な体験を提供している教室である。今年は結成5年の夏休み特別企画として、地域の自然豊かな公園（智光山公園）の「ナイト・ツアー」を開催した。児童と保護者、スタッフなど150人が参加したこの体験教室では、目隠しをしてコウモリに扮した子どもが聴覚だけで人を捕まえるコウモリゲームや、暗闇歩きなど、視覚以外の感覚を使った体験をした。

＜実施内容＞

- ・開催日時 7月24日（日）18：30～20：30
- ・参加対象 小学1年生～6年生（保護者同伴で参加、小学生以下の兄弟を連れての参加可）
- ・会場 智光山公園内 ・参加費 無料
- ・服装 長そで、長ズボン、運動靴
- ・持ち物 名札、タオル、飲み物、虫よけ・虫さされ薬、雨具
- ・体験プログラム
 1. ネイチャーゲーム（コウモリクイズとゲーム、ゲーム「いねむりおじさん」）
 2. ナイトハイク（暗闇歩き体験）
- ・指導（講師） さやまシェアリングネイチャーの会（8人）

成 果

- 参加者の人数が多かったが、規律を保ち安全に実施することができた。
- 夏休み中、日曜の夜の開催だったので父親の参加も多く、普段とは違った取り組みができた。
- 暗闇の中で音や匂いを感じることができ、参加者にとって良い体験となった。
- 地域の「資源」を活用して、児童そして関わる大人も共に楽しく活動できる企画として実施した。今後も工夫を重ねて行きたい。



【コウモリゲームを楽しむ様子】

(放課後子供教室)

市町村名	羽生市			
実施教室数	6 教室	対象学校数	6 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	4 教室	コーディネーター数	6 人
	うち連携型	1 教室	平均年間開催日数	33 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	手子林小学校放課後子ども教室・南羽生学童クラブ合同活動 (手子林小学校放課後子ども教室)				
登録児童数	10 人	登録スタッフ数	5 人	児童クラブ連携状況	連携型

ポイント

- 放課後児童クラブとの連携を図り、手子林小学校の体育館で合同活動を実施した。
- 放課後子ども教室の児童（4～6年生）が、放課後児童クラブの児童（1～3年生）に昔遊び（けん玉・お手玉・竹トンボ・コマ・だるま落とし）の道具の使い方を教えられるよう、事前に練習を重ねて実施した。
- 地元の更生保護女性会の方々を講師として招き、放課後子ども教室の児童のサポートをお願いした。



【けん玉に夢中になる児童】

取組内容

(1) 実施内容

地元の更生保護女性会の方々を講師として招き、放課後子ども教室児童（4～6年生）9人、放課後児童クラブ児童（1～3年生）70人を対象に、昔遊びを実施した。

(2) 事前準備

合同活動実施1か月前に、地元の更生保護女性会の方々と放課後子ども教室児童、指導員の皆さんで打合せを行い、事業の目的や内容を共有した。

昔遊びの道具は、小学校からお借りし、放課後の時間を利用して、放課後子ども教室に参加する児童が昔遊びの練習を行った。

(3) 当日の様子

昔遊び（けん玉・お手玉・竹トンボ・コマ・だるま落とし）の分けをし、各コーナーに放課後子ども教室の児童を配置した。放課後児童クラブの児童は班に分かれ、各コーナーを10分間おきに体験しながら約1時間の合同活動を行った。放課後子ども教室の児童が放課後児童クラブの児童に教えている姿が印象的だった。



【更生保護女性会の方に説明を受ける児童】

成果

- 合同活動実施により、高学年と低学年との交流が実現することで、放課後子ども教室の児童が放課後児童クラブの児童に教える関係性ができた。
- 合同活動後の意見交換会では、来年度以降の実施継続に向けて、上記に挙げた成果や今後の課題を放課後子ども教室と放課後児童クラブ両方で共有することができた。
- 地元の更生保護女性会の方々との交流が深まり、異年齢間の交流の幅を広げることができた。今後も地域交流を広げていきたい。

市町村名	鴻巣市			
実施教室数	12 教室	対象学校数	12 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	2 教室	コーディネーター数	10 人
	うち連携型	10 教室	平均年間開催日数	31 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	体験の場（吹上小放課後子ども教室）				
登録児童数	69 人	登録スタッフ数	20 人	児童クラブ連携状況	連携型

ポイント

- PTAのOGや地域の方々と連携して運営している。
- 週2回（月・木）、学びの場（漢字・計算ドリル教室・読み聞かせ教室）と体験の場（スポーツ教室・折り紙教室・パソコン教室・歌って遊ぼう教室）に分けて、実施している。
- 各教室の活動状況を発信するため、定期的に「放課後子ども教室だより」を発行している。

取組内容

- 体験の場
スポーツ教室・折り紙教室・パソコン教室・歌って遊ぼう教室を実施

【パソコン教室】

(1) 事前の準備

スタッフ会議を開き、指導計画を作成し、指導内容の共通理解を図る。

(2) 当日の活動

当日、活動前にスタッフの打合せを行い、スムーズな活動ができるようにしている。また、活動に参加するスタッフは3人以上となるように調整している。

小学校1・2年生が参加するため、パソコン操作に慣れることを目的とし、簡単な講義内容で実施している。子供たちは、スタッフのサポートのもと、マウス操作や文字入力といった基本的な操作を学んだり、お絵描きを楽しんだりしている。完成した自分の作品をプリントアウトして、友達同士で見せ合っている様子が見られる。

(3) 活動後

スタッフ同士で活動の様子について話し合い、活動記録簿に記録している。当日、活動に参加していないスタッフにも、その日の取組内容や参加した子供たちの様子を伝えることができる。



【パソコン教室】

成果

- 学校の全面的なサポートにより、各教室場所の確保や用具等の貸し出しができ、初年度にもかかわらず、順調に放課後子ども教室が行われている。
- 子供たちへのアンケートにおいて、「放課後子ども教室に参加して良かったこと」を問うと、「宿題を早くするようになった」「友達が増えた」「それぞれの教室の先生と挨拶や話をするようになった」等の回答が多かった。
- 保護者へのアンケートにおいて、「放課後子ども教室に参加させる理由」を問うと、「いろいろな体験ができるから」「学校内施設で安心だから」「子供が参加したいと言うから」等の回答が多かった。
- 来年度に向けて、教室の運営に関わるスタッフを地域で継続的に確保していくことが必要である。



【折り紙教室】

(放課後子供教室)

市町村名	草加市			
実施教室数	20 教室	対象学校数	20 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	19 教室	コーディネーター数	15 人
	うち連携型	1 教室	平均年間開催日数	42 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	自由な遊びと学習の見守り (かがやけ西町！)				
-----------	------------------------	--	--	--	--

登録児童数	178 人	登録スタッフ数	13 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	-------	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 草加市放課後子ども教室推進事業は放課後や学校休業日に、小学校等の施設を使用して子供たちの安全・安心な居場所を設け、子供たちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するために、学校・保護者・地域の皆さんの参画・協力を得て行う事業である。
- 「かがやけ西町！」は平成28年1月に開設した新規教室である。
- 毎週水曜日に開催しており、地域の町会を中心として様々な団体等から、児童サポーターの協力が得られ、「地域で子供を見守る」という目的に沿って運営されている。
- 活動は、自由遊びを基本とし、子供たちの主体性を尊重している。

取組内容

活動できる部屋と登録児童数との兼ね合いで、学年を分けて隔週でスタートしたが、様子をみながら、平成28年2月より全学年同時開催とした。

今年度は昨年度の倍近い登録があり、毎回100人を超す子供たちが参加している。

(1) 日頃の活動の様子

- ・放課後ランドセルを持ったまま直接教室へ参加し、図書室で宿題を行う。スタッフの見守りのもと、子供たちは学年ごとに集中して学習している。
- ・宿題を終えると、校庭ではサッカーやドッジボール、室内では将棋やトランプ、カプラ（木製ブロック）など、思い思いの活動をしている。特に、カプラは高学年の女子を中心に人気があり、自分たちの背を超えるくらい高く積み上げるなど、想像力豊かな作品を作り、楽しんでいる。
- ・宿題の時間は学年ごとに分かれて学習しているが、遊びの時間は異学年の交流が盛んとなり、和気あいあいと過ごしている。



【図書室で宿題】

(2) 児童サポーター

- ・現在11人の運営サポーター、2人のあそびサポーターが登録しており、シフトを組んで毎回その内の運営サポーター8人、あそびサポーター1人が「子供主体」の思いの中で子供たちを見守っている。



【カプラの力作完成！】

成果

(1) 子供たちの様子

高学年の参加者も多く、異年齢で遊ぶ姿も見られるなど、コミュニケーションの取り方を学んでいる。

(2) 学校、児童クラブとの連携

学校の行事や決まり、緊急時における対応などについて、学校や児童クラブと共通理解を図り、連携している。

(3) 保護者の理解

「(子供が)毎週水曜日を楽しみにしていますよ」「かがやけ西町！ができて良かったです」など、ありがたい言葉をいただき、事業への理解も深まってきている。

市町村名	蕨市			
実施教室数	7 教室	対象学校数	7 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	7 教室	コーディネーター数	7 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	32 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	地域の見守りで自由遊び（中央小学校区放課後子ども教室）				
登録児童数	128 人	登録スタッフ数	16 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

「子供たちが安心して仲間と学び、遊び、体験学習ができる安全・安心な居場所づくりと、子供たちを地域で見守る」という方針のもと、平成19年度から当事業を実施し10年目を迎えた。

当教室は、子供たちが自由に遊ぶこと、異学年交流や体験活動から新しい学びを得ること、「子供らしさ」を十二分に発揮できる場を提供できる運営を心掛けている。

そのため、“参加者全員で何かを行う”のではなく、宿題を終えたら、遊びの選択を子供自身で行い、それをスタッフが見守りつつ、子供たちとの交流を楽しんでいる。



【自由遊びの様子】

取組内容

子供たちの自由な遊びと学びを支援するために、施設の使用については学校と調整を行っている。活動については、様々な遊びの選択肢をスタッフ会議で話し合い、年間を通じて準備している。

- 活動日：毎週月曜日（祝祭日・学校行事等を除く）
- 時間：授業終了後から17時まで（冬季は16時30分）
- 活動場所：一時的余裕教室、体育館、校庭等
- 参加費：原則、無料（実費で保険への加入は必須・特定行事などは実費負担あり）
- 主な活動：スポーツ活動（卓球・ドッジボール・サッカー・野球等）
文化活動（折り紙・押花・絵手紙・昔の遊び等）
体験活動やその他のイベント（菜園づくり・茶道・クリスマス会等）
地域の公民館まつりに作品を出展、PTAまつりに参加
- 協力団体：小学校・PTA・町会・保護司・コミュニティ委員・民生委員児童委員等

成果

- 今年度から、放課後子ども教室が使用している部屋の隣に留守家庭児童指導室（以下、学童室）が併設された。当初は当教室の参加者か学童室の子供か見分けがつかない等、トラブルが起こるのではないかとという心配があった。しかし、学童室の指導員と連絡調整を行うことで、大きなトラブルもなく現在まで実施できている。さらに、2学期最後の教室ではマジックショーを開催して、学童室の子供や指導員も一緒に鑑賞した。
- 学校や保護者、行政との連絡調整を丁寧に行い、お互いに連携を図ることやスタッフ間の意思疎通をいつも心掛けているため、当事業が安定して継続できている。



【体験活動（茶道）】

(放課後子供教室)

市町村名	戸田市			
実施教室数	12 教室	対象学校数	12 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	12 教室	コーディネーター数	12 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	22 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	グラウンドゴルフ (新曽北小学校放課後子ども教室)				
-----------	---------------------------	--	--	--	--

登録児童数	143 人	登録スタッフ数	31 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	-------	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 通常の開催日では、参加児童が校庭や空き教室を使った工作コーナーなどの中から自由に活動場所を選べるようにするとともに、年に数回、全児童が参加する講座形式の特別講座を開催した。
- 市レクリエーション協会や、地域の押し花サークルの協力を得て、グラウンドゴルフや押し花など、バリエーション豊かな開催内容となっている。
- 平成26年度からは、学校の敷地内の学童保育室の開室日に、一定の登録時間を設け、追加登録を受け付けている。

取組内容

新曽北小学校放課後子ども教室は、平成22年度に開設し、平成27年度から1年生と2～6年生で開催日を分けて、それぞれ月1回ずつ開催しており、コーディネーターを中心に毎月様々な活動を行っている。

【特別講座・グラウンドゴルフ】

(1) 開催経緯

市放課後子ども教室運営委員の中に、市レクリエーション協会会員がいたことから、コーディネーターが協力を依頼し、グラウンドゴルフの特別講座を開催することになった。

(2) 事前準備

当日スムーズに進行するため、スタッフは事前に市レクリエーション協会会員からグラウンドゴルフの説明を受けた。また、当日の参加児童については人数制限を設け、応募した約80人の中から抽選で30人程度を参加可能とした。(予想をはるかに上回る応募者数だったことから、できるだけ複数回開催できるよう後日調整。) 必要な道具については、市で保有している道具を無料でレンタルできるサービスを利用し、コーディネーターが手配した。

(3) 当日の様子

参加児童を3～5人ずつのグループに分け、それぞれに指導者としてスタッフが付き、グラウンドゴルフの説明・指導と点数記録を担当した。新しい遊びということもあり、児童はスタッフの説明をよく聞き、ルールを守って活動することができた。

また、ホールインワンを取った児童には、活動終了後にスタッフ手作りのしおりが賞として贈られ、嬉しそうに保護者に報告する姿があった。



【特別講座グラウンドゴルフ】

成果

- 新しい遊びを取り入れることで、自由遊びでは開放的になってしまう児童も、スタッフの話をしっかり聞いて取り組むことができた。
- 今回の活動を通して、コーディネーターを含む複数名のスタッフが、グラウンドゴルフのルールを習得したので、今後も道具をレンタルすれば開催内容に組み込むことができる。
- 市レクリエーション協会とコーディネーターとの協力によって、開催内容がより充実したので、他小学校の放課後子ども教室でも同様に協力できるようにしたい。

市町村名	入間市			
実施教室数	20 教室	対象学校数	16 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	3 教室	コーディネーター数	4 人
	うち連携型	17 教室	平均年間開催日数	42 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	丸太切り工作（たかくら放課後子ども教室）				
登録児童数	106 人	登録スタッフ数	25 人	児童クラブ連携状況	連携型

ポイント

- 体験を中心とした教室であり、また公民館を活用して実施していることから、定員を20人と定めている。1回に参加できる人数は限られているため、なるべく多くの子供たちが参加できるように、4つ程度のコースに分けて実施している。
- 料理教室や木を使った工作など、普段学校の授業ではなかなか触れられないことを体験できるような教室になるよう心掛けている。
- コーディネーターが中心となって講師の発掘、調整を行っている。また、公民館を活用して地元の人材を発掘し、講師等をお願いしている。

取組内容

(1) 実施内容

地域の丘陵管理団体にボランティア活動をしている方々の協力のもと、丸太切りを実施した。

丸太を切るという体験だけでなく、切り出した木材を材料とした工作を実施するなど、木材の活用を図っている。

(2) 事前準備

生涯学習課とともに必要な材料を用意し、当日はサポーター、ボランティアとともに準備をし、参加者を迎える。

木材については、講師であるボランティアの方々のご厚意で提供していただいたものである。

(3) 当日の様子

講師を中心に教室を実施し、コーディネーター、サポーター、ボランティアは子供の補助に当たる。工具を使用するため安全性の確保が不可欠であり、十分な人数が補助に当たるように努めた。

安全に配慮する一方で、子供の自主性を育むために、講師と相談の上、子供を手伝い過ぎることのないよう見守る姿勢を大切にした。

参加した子供たちからは「切るのは難しいけど楽しかった」、「木が良いにおい」などの感想が寄せられた。

成 果

- 学期ごとにコースを組んで実施しているが、回を追うごとに応募人数は増加傾向にあり、需要を感じている。
- 参加者のアンケートでは、いずれの体験教室も好評であり、「普段はできない、家庭でもなかなか教えられることを体験できる」「異学年の子供たちやたくさんの大人との交流を持つことができる」との感想が寄せられている。
- 学校関係者からは、体験教室を通して学んだことが、子供たちの成功体験につながっているとのことである。



【お菓子づくり】



【丸太切りに挑戦】

(放課後子供教室)

市町村名	志木市			
実施教室数	4 教室	対象学校数	8 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	4 教室	コーディネーター数	4 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	105 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	多世代交流事業 うたの会（志木第四小学校放課後子供教室）
----------	------------------------------

登録児童数	296 人	登録スタッフ数	163 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	-------	---------	-------	-----------	-----

ポイント

- 子供たちに様々な経験を提供するための企画を実施
- 保護者層の参画を引き出すために、大人、親子向けプログラムの実施
- シニア層の経験や力を反映するプログラムの実施
- 活動・イベントによりチラシ・ポスター作成、通信発行など、更なる周知を図るため広報活動を積極的に実施
- まちぐるみで「子供」たちを見守り、本事業を継続するために、地域の大人の力（経験・能力）を引き出すため、保護者及び大人をスタッフとして参画できるよう促している
- 学童保育クラブ及び学校と一体的に事業展開（学校授業の一環として事業を実施）

取組内容

(1) 実施に当たって

志木市の放課後子供教室事業は、地域の方々の参画を得ながら、多世代交流事業も展開しており、平日及び休日に高齢者と子供とが同時に事業を実施するものである。

放課後子供教室の拠点は、志木市立志木第四小学校の北校舎に、多世代交流事業を推進するための、多世代交流館「もくせい」内に設置されており、午前中は高齢者を中心とした事業を展開し、学校終了後には子供を対象とした事業を展開している。



【うたの会 発表会】

(2) 事前準備及び当日の実施について

志木第四小学校放課後子供教室は、週一回多世代交流事業として、高齢者向けの事業を通常事業と併せて展開している。

月2回は、うたの会を開催し、音楽劇の練習をしており、高齢者と母親世代のスタッフたちが音楽劇「森は生きている」を、発表会へ向け努力を重ねている。

なお、発表会では、学校との共同事業として、小学2年生を対象に授業の一環として鑑賞した。

成果

放課後子供教室は、市民団体が運営を担っており、地域の特性を生かした形で運営が出来ており、子供たちと地域の方々が、日常的に顔を合わせることで、コミュニティーが形成され、自然と新たな居場所づくりに繋がっている。

また、地域の方々に積極的に参加いただくことで、学校が地域社会の拠点として位置付けられ、放課後子供教室への理解と定着がさらに進んでいる。

さらに、様々な事業を通じて、学校や学童保育クラブとの連携も深まり、更なる一体的な事業展開も期待できる。

第5 「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）

市町村名	和光市			
実施教室数	11 教室	対象学校数	9 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	11 教室	コーディネーター数	4 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	185 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	みんなで遊ぼう！（第三小学校放課後子ども教室）				
登録児童数	137 人	登録スタッフ数	12 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- 昨年度までは教育活動サポーターが遊びのルール作りやゲームの審判をしていたが、参加児童数が増え、遊びが多様化したことから、今年度は遊びの種目ごとに各グループを作り、各グループにリーダーを立て、子供たちが決めたルールで自主的に遊ぶようにした。
- 校庭で遊ぶ際、一般の子供と区別をするためにビブスを着用した。

取組内容

- 【校庭】ドッジボール、サッカー、大なわとび、鉄棒、登り棒、ブランコ、うんてい、ジャングルジム、童謡を使った遊びなど
- 【室内】ねんど遊び、こま回し、けん玉、塗り絵、折り紙、トランプ、オセロなど
- 【体育館】ドッジボール、風船バレー、バルーン送りなど

授業終了後、空き教室に集まり、受付を済ませた子供たちから宿題をする。時間になったら校庭に出る。

何をして過ごすかは子供たちの自主性に任せている。各グループのリーダーは、立候補制となっており、立候補した子供たちは話し合いや、じゃんけんでリーダーを決める。

リーダーは、低学年も遊びに参加しやすいようにルールを工夫したり、用具の片付けの際に積極的に声を掛けたりしている。

また、活動終了時には、各リーダーが感想を発表するまとめの時間を設けている。



【ドッジボール】



【ジャングルジム】



【花いちもんめ】

成果

- 各遊びのグループにリーダーを立てたことで、小さなトラブルについては、見守りの大人にすぐに頼るのではなく、自分たちで解決するという気持ちが顕著に表れた。また、高学年のリーダーは、自分が楽しむだけでなく、低学年の様子を気にかけてながら活動する様子が見られるようになった。
- 今まで以上に異学年の交流が活発になり、子供たちは和気あいあいと活動している。

(放課後子供教室)

市町村名	新座市			
実施教室数	8 教室	対象学校数	8 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	8 教室	コーディネーター数	17 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	230 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	夏休みの取組と特別体験教室について (東北ココフレンド)				
-----------	------------------------------	--	--	--	--

登録児童数	428 人	登録スタッフ数	30 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	-------	---------	------	-----------	-----

ポイント

(1) 夏休みの取組

- 平成28年度から、夏休み期間中の開室時間を午前8時30分～午後5時とした。(昨年度までの長期休業期間は午前8時30分～正午)
- 昼食について、希望者は仕出し弁当を注文できるようにした。
- 学生ボランティアに協力をいただいたり、教育活動サポーターの業務をシルバー人材センターに一部委託した。
- 午前と午後でそれぞれに「遊びの時間」と「学習の時間」を設け、活動にメリハリを付けた。

(2) 特別活動教室

- 多くの子供たちが参加しやすいよう実施日を全学年5校時で授業が終わる月曜日に設定した。
- 必要な材料の目途を立てるために事前申込制とした。
- 工作教室などについては、3～4回の連続したプログラムとし、十分な作業時間を確保した。



【夏休みの昼食の様子】

取組内容

(1) 夏休みの取組

- 通常の学習の時間・遊びの時間のほかに、特別活動教室やお楽しみ会(ヨーヨー祭り)の実施、パラリンピック車椅子バスケットボールに出場した選手の練習見学などを行った。

(2) 特別活動教室

- 工作教室(独楽・お面・風車・風鈴・オブジェづくりなど)、百人一首大会、絵手紙教室、ラケットテニス教室、読み聞かせ・紙芝居教室、音楽の会などを実施している。



【読み聞かせの様子】

成果

(1) 夏休みの取組

- 参加児童数が増加した。
- 活動時間が伸びたことにより、子供たち一人一人と触れ合える時間や保護者とコミュニケーションを取る時間、学校教員と(特に配慮が必要な)子供の対応について、情報交換をする時間が持てた。
- 学生ボランティアやシルバー人材センターの協力により、きめ細やかな見守りができた。
- 学生も子供たちとどのように接したらよいかを模索し、工夫する姿が見受けられた。

(2) 特別活動教室

- より専門的(具体的、実践的)な活動ができた。
- スタッフ間で話し合いを重ね、プログラムを企画・実施したことにより、スタッフ自身も活動的・協力的になった。また、多くのスタッフのやりがいにつながった。

市町村名	桶川市			
実施教室数	7 教室	対象学校数	7 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	7 教室	コーディネーター数	16 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	115 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	「学習の時間」と「ふれあいの時間」（朝日小学校放課後子供教室）				
登録児童数	40 人	登録スタッフ数	25 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- 平成27年9月に開室し、給食のある日の放課後、各曜日に定員を設け実施している。1日の活動内容は「学習の時間」と「ふれあいの時間」の2部構成としている。
- 「学習の時間」は、学習する習慣を身に付け、学校の宿題や自主学習に取り組めるよう、決まった時間に机に向かうなどの工夫をしている。
- 「ふれあいの時間」は、スポーツ・観劇・音楽・工作の4つの柱をメインに構成し、子供たちに様々な体験活動を提供できるよう工夫している。
- 学校応援団、図書ボランティア、PTAなどの方々に放課後子供教室の運営・広報活動を支援していただいている。

取組内容

(1)「学習の時間」

子供たちは、教育活動推進員のサポートのもと自主的な学習を行っている。宿題が終わった子供たちは読書をするなど、集中して学習ができる環境を整えている。

(2)「ふれあいの時間」

スポーツ（スポーツ吹矢・グラウンドゴルフ・テニス・バレーボール・バドミントンなど）、観劇（劇・人形劇・パネルシアターなど）、音楽（箏・三味線など）、工作（バルーンアート、ラミネート工作、木工、プラバンなど）の他に昔遊び、手品など、協力員がそれぞれ自分の趣味や特技を活かし活動している。

(3) 放課後児童クラブとの連携事業

月に1回程度、放課後児童クラブとの連携としてふれあいの時間に活動をしている。グラウンドゴルフ、パネルシアター、手品など様々な内容で活動している。昨年12月から始めたことにより、よりスムーズに活動できている。

成 果

- 子供を迎えに来た保護者に、活動に参加してもらったり、展示された子供たちの作品を見てもらうことで、保護者の関心を高めることができた。活動中は、親子の会話が弾んでいる様子が見られ、微笑ましかった。
- 子供を中心に地域社会と学校が連携・協働しており、一体化しつつあると感じる。



【箏を教わる子供たち】



【手品にチャレンジ!】

(放課後子供教室)

市町村名	久喜市			
実施教室数	23 教室	対象学校数	23 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	17 教室	コーディネーター数	24 人
	うち連携型	6 教室	平均年間開催日数	16.8 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	多彩な講座の展開 (ほくとっ子ゆうゆうプラザ)				
-----------	-------------------------	--	--	--	--

登録児童数	115 人	登録スタッフ数	109 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	-------	---------	-------	-----------	-----

ポイント

- 多彩な講座を展開すること
運動系、文化系など多彩な講座を展開するべく、地域内、地域外の人材の確保に努めた。
- 子供にとっての「自由」＝「工夫の余地」を確保すること
最低限のマナーは守りながらも、出来るだけルールを設けず、子供の自由な発想を活かすよう努めた。
- 子供はもちろん、大人も楽しい時間であること
実施委員会後に、茶話会のような時間を過ごしたり、サポーター交流会で他講座のサポーターとも交流したりするなど、大人同士の交流の幅も広げるように努めた。

取組内容

(1) 講座の特色

- 月曜日の活動 (18回)
いろいろなことにチャレンジできる出会いと発見の講座
- 土曜日の講座 (6回)
親子で楽しみ、芸術や科学に集中できる講座

(2) 講座の内容と工夫

- ・ 久喜市出身の元お笑い芸人で構成作家の大輪貴史氏を講師として招き、全10回の「お笑い講座」を開講した。「R-1ぐらんぷり」決勝進出の実績を持つプロの芸人の講座は、教室の多様性の確保に寄与した。



【人を笑わせるって楽しいね！】

子供たちは、講師が事前に用意した台本をもとにコントに挑戦した。低学年が中心であったため、最初は苦戦していたが、回を重ねるごとに上達していく姿が見られた。全10回という継続的な講座にすることで、子供たちの自己表現力を高める効果が得られた。

- ・ 「ポップンヨガ」の講座では、ヨガとダンスの要素を取り入れたエクササイズを展開した。
- ・ 「陶芸」講座では、本格的な陶芸の作品を複数回に渡って作成した。
- ・ 「ロボット」講座では、オリジナルのロボット作りを進めた。部品から手作りのため個々人の創意工夫が必要となり、市販品とは違う味わいを楽しむことができた。
- ・ 「自由遊び」の講座では、空間と少々の遊び道具は提供したものの、基本的に遊び方は子供たちに任せた。
- ・ 夏(流しそうめん)、冬(もちつき)のイベントには、普段の活動には参加をしていない保護者も多く参加し、イベントを盛り上げた。また、イベントのお知らせを地域に回覧したことにより、たくさんの地域の方々に参加した。



【美味しいお餅をぺったんぺったん！】

成果

- 異学年の児童や普段は接することのない大人など、子供たちに接する人が増え、人間関係の幅が広がった。
- サポーター等を務める地域の方と顔見知りになり、街中でお互いに自然な声掛けができるようになった。サポーターからも「子供たちから挨拶されて嬉しい」との声も聞かれた。
- 実施委員、講師、講座サポーター、また下校サポーターの連携により、講座中、下校中とも大きな事故無く講座を展開できた。

市町村名	北本市			
実施教室数	8 教室	対象学校数	8 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	8 教室	コーディネーター数	19 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	153 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	地域人材を生かしたアイデアあふれる活動プログラムの実践 (南小放課後子ども教室)				
登録児童数	55 人	登録スタッフ数	35 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- 全日、「学びの時間」と「ふれあいの時間」を設定し、充実したプログラムを実施
- 学期毎の最終日に「お楽しみ会」を実施
- 北本市放課後子ども総合プランによる学童保育室との交流

取組内容

(1) 実施内容

活動の前半は「学びの時間」、後半は「ふれあいの時間」を実施している。「学びの時間」では、教員経験者を中心に児童の自主的な学習の支援を行い、宿題が終わった児童は、ドリルや読書等の自主学習にも取り組んでいる。「ふれあいの時間」では、地域の方の参画を得て、文化的・体験的活動を行っている。児童は、吹き矢、ものづくり、昔あそび、スポーツ等に積極的に取り組み、冬には、児童・スタッフ全員で指リリアン編みのマフラーを作製した。

学期毎の最終日には「お楽しみ会」を実施。「マジック」「ハーモニカ演奏」「けん玉実演」等のアトラクションを取り入れ、2学期にはスタッフ扮するサンタクロースが児童一人一人にプレゼントを渡す等の工夫を凝らしている。お楽しみ会には、保護者も参加が可能。

また、今年度は11月21日に一体型プログラムとして、「2個玉ドッジボール」「しっぽとりゲーム」を小学校の体育館で実施した。南小放課後子ども教室1～3年生13人と南学童保育室の2・3年生28人が交流を深めた。

(2) 活動計画の工夫

活動については、学びのコーディネーターとふれあいのコーディネーターが、スタッフの意見を聞きながら計画している。活動計画は毎月配布する「おたより」に掲載し、保護者にも知らせている。

(3) 事前準備

北本市放課後子ども総合プランによる共通プログラムについては、南学童保育室の指導員を交えた打合せを行い、日時、内容を決定。双方の保護者にも内容を知らせ、学童保育室参加児童の希望を募って実施した。



【学びの時間】



【2個玉ドッジボール】

成 果

- 南小放課後子ども教室は、開設して9年目を迎える。児童の実態や学年の構成人数を考慮し、様々な活動が円滑に推進できるよう創意工夫したプログラムを実施することで、安全・安心な活動拠点として、児童が大きな事故も無く過ごせている。
- 毎年実施しているアンケートでも、児童からは「楽しく過ごせた。」「みんながいるから学習もやる気になる。」、保護者からも「宿題や家庭学習を行う際の集中力がついた。」「家庭ではできない体験ができ、ありがたい。」と好評を得ている。
- 北本市放課後子ども総合プランの活動内容について、児童からは、「楽しかった。」「またやりたい。」との声が届いている。児童やスタッフの意見を基に検討し、来年度につなげていきたい。

(放課後子供教室)

市町村名	八潮市			
実施教室数	10 教室	対象学校数	10 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	19 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	4 日
	うちその他	10 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	マジック教室 (大曾根小土曜ひろば)
-----------	--------------------

登録児童数	0 人	登録スタッフ数	0 人	児童クラブ連携状況	その他
-------	-----	---------	-----	-----------	-----

ポイント

- 八潮市で実施している「生涯学習まちづくり出前講座」を利用し、「マジック講座」を開催した。
開催に当たり、準備するもの・子供たちの持ち物・当日の長テーブルの配置などを事前に講師と打合せを行い、当日のタイムスケジュールを作成した。
また、紙面による開催案内のほかに、前日には配信メールを利用し、土曜広場開催の周知及び持ち物の案内を行った。
各自の持ち物は、トランプ・ハンカチーフ・40センチのヒモを持参ということだったので、消耗品費よりヒモを一括購入し、子供たちに持ち帰ってもらえるようにした。



【マジックを披露！】

取組内容

- 1テーブル5～6人の子供が座れるようにし、各テーブル1人以上のスタッフがサポートできるようにした。
講座内容は、はじめに講師によるギターの弾き語りからスタートし、英語を交えた歌を皆で歌ったり、大きなトランプやCD・カードなどを使ったマジックを見せてもらった。その後、保護者と一緒に5・6年生がマジックのやり方を先に講師に教えてもらい、低～中学年へと教えていった。
トランプ・ハンカチーフを使用した数々のマジックに、子供たちはとても真剣に取り組み、うまくできると歓声を上げて喜んでいた。



【大人も子供も夢中で練習】

成果

- 初めて依頼する講座ということで、講座内容も参加人数も予測がつかなかったが、大人と子供とあわせて80人を超える参加者があった。
- トランプやヒモのマジックの中には、低学年には少し難しい内容もあったが、5・6年生を中心にテーブルを回って伝えていくことで理解することができた。
中には、大人よりも子供の方が早く習得でき、子供たちが大人に教えるといった場面もあり、子供から大人まで楽しめるマジックを教えることができた。マジックがうまくいくと、どの子も目をキラキラさせながら「見てて！」と披露してくれる姿がとても印象的だった。
- 講師が中学校の英語の先生ということで、英語レッスンを交えながらのお話もとても上手で楽しく聞きやすかったと思う。



【88人が参加し大盛況！】

※ 八潮市では児童・スタッフ共に登録制ではなく、全ての児童を対象としスタッフの人数も毎回変動します。当日の全参加人数は88人でした。
(児童66人・保護者13人・幼児3人・安全管理員5人・講師1人)

市町村名	富士見市			
実施教室数	11 教室	対象学校数	11 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	11 教室	コーディネーター数	13 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	13 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	元全日本チャンピオンによる卓球教室（関沢キッズクラブ）				
登録児童数	544 人	登録スタッフ数	10 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- 活動日を原則第2・第4土曜日に設定している。月に2回開催し、そのうちの1回はスポーツ活動（インディアカ、バドミントン、ラケットテニス、卓球、サッカー、野球など）を行い、もう1回は文化活動（生け花教室、篆刻、工作など）を行っている。

毎年11月に開催している「もちつき体験教室」は、学校の先生や地域のみなさんとの交流の機会にもなっており、毎回100人近い参加者で、関沢キッズクラブのメインイベントとなっている。

- 通常時の活動のみならず、イベントや特別教室等を実施することによって、活動の充実を図っている。



【チャンピオン直伝！卓球教室】

取組内容

[特別教室について]

「埼玉県青少年夢の配達便事業 齋藤清先生の卓球教室」小、中学生の夢の発見、実現を支援してくれる事業に今年度初めて応募したが、見事当選することができた。

教室当日は、元全日本チャンピオンの齋藤清氏を講師としてお迎えし、子供たちに卓球の楽しさを身をもって教えていただいた。

低学年の参加が多く、初めて卓球する子供もいたが、先生の熱心で分かりやすい指導に、みんな真剣に取り組んでいた。



【齋藤清先生の話をもとに真剣に聞く子供たち】

成果

[特別教室について]

- 時期的にちょうどリオデジャネイロオリンピックが終了したタイミングであり、卓球の日本勢の活躍を見て、卓球をやってみようと思った子供の参加が多かったと思う。
この事業に応募したのは、オリンピック前という偶然が重なったとはいえ、卓球に応募してよかった。ラケットにボールがなかなか当たらないと、齋藤先生に駆け寄る低学年の子もいたが、先生は優しくかつ丁寧に指導してくださった。教室が終了した後も、子供たちや保護者、運営スタッフにも気軽に声をかけていただき、齋藤先生との会話も弾んだ。
抽選制なので、また来年度応募しても、当選するとは限らないが、2回目の卓球教室の実現を目指したいと思う。
- 通常時の活動でも実施している卓球について、プロの方を講師として招くことで、子供たちの興味を一層引き付けることにつながった。

(放課後子供教室)

市町村名	三郷市			
実施教室数	4 教室	対象学校数	19 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	1 教室	コーディネーター数	2 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	80 日
	うちその他	3 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	夏休みイベント (わくわく砦たかす)
-----------	--------------------

登録児童数	94 人	登録スタッフ数	10 人	児童クラブ連携状況	その他
-------	------	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 普段の「わくわく砦たかす」の参加者だけではなく、近隣の小学校にもイベントの案内を配布し、イベントの周知及び参加促進に努めた。
- 2日間の夏休みイベントであるため、2日間とも同じ活動を行うのではなく、1日目と2日目を関連付けるような内容とした。

取組内容

- (1) 実施日
平成28年8月23日(火)、8月25日(木)
- (2) 実施内容
1日目 ◎ペットボトル水族館 ◎エコバック型染め
◎ボードゲーム:「マンカラ」ワークショップ
2日目 ◎マンカラボードづくり
◎マンカラトーナメント「マンカラゲーム大会」

※マンカラのルール

両端に2個の穴のあるボードと、おはじきなどを36個用意。それぞれの陣地の穴におはじきを3個ずつ置く。自陣のいずれかの穴から全てのおはじきを取り出し、反時計回りに隣の穴から1個ずつ配る。順番にそれを繰り返し、自陣からすべてのおはじきがなくなると勝ち。

【マンカラゲーム大会】

1日目のワークショップでは、スタッフの指導のもとマンカラボードの作成方法と遊びのルールを学んだ。ボードは、身近な材料である段ボールと紙皿で作成した。自分たちの手でボードを作ること、工作を楽しむことができ、遊びの幅を広げることにつながった。マンカラはルールが単純であり、低学年の児童でも理解しやすいため、とても楽しそうに対戦していた。また、頭を使うゲームでもあるため、子供と大人が一緒になって取り組むことができた。

成果

- 「わくわく砦たかす」は、学校の長期休暇の間は休室となっている。このイベントを開催することにより、夏休みでも異学年や他校の児童と触れ合える貴重な機会となった。
- 本イベントを周知した後、「わくわく砦たかす」の登録児童数が大きく増加した。
- 学校がある時期は、時間的・距離的制約があり、「わくわく砦たかす」に通えない児童も多く参加してくれた。普段、参加できない児童に対して、「わくわく砦たかす」を知ってもらうことができた。
- 現在はテレビゲームや携帯ゲームなど、遊ぶものが豊富にあるが、昔からあるマンカラというボードゲームに親しんでもらえた。マンカラは紀元前15世紀よりあるゲームであるので、昔遊びを体験してもらえる効果もあった。



【夏休みイベントチラシ】



【マンカラ体験及びエコバック型染め】

市町村名	蓮田市			
実施教室数	4 教室	対象学校数	4 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	1 人
	うち連携型	2 教室	平均年間開催日数	79 日
	うちその他	2 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	ひらりんきっず・ひらりんすたでい (蓮田市立平野小学校放課後子供教室)				
登録児童数	86 人	登録スタッフ数	18 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 昔遊び、折り紙、手遊び、体育館遊び、紙芝居、劇、料理教室等多くのボランティアによる体験教室は学校では体験できない継続的な体験として非常に意味があると思われる。
- 異学年交流の促進が図れるよう、活動のルールやグループ編成に配慮しながら実施している。
- 自由遊びを中心に、子供たちの希望や季節を取り入れたイベントを行う。
- 学校内で実施することにより、安心・安全な放課後の居場所として保護者から信頼されている。

取組内容

(1) 実施内容

- ひらりんきっず（1年生から6年生、体験学習、前期12回・後期13回）
地域の方による昔遊び、折り紙、手遊び、体育館遊び、紙芝居、劇、料理教室等の体験活動を行っている。また、宿題の学習支援も行っている。
- ひらりんすたでい（2年生から6年生、学習支援、全20回）
元小学校教諭の方を含む地域の方々による算数等のプリントを用いた学習支援を行い、学習の基礎・基本を学んでいる。



【クリスマス会】



【オセロ】



【プリント学習】

成 果

- 異学年間の交流や体験活動での大人たちとの交流を通じて、様々な体験ができ、児童の健全育成が図られている。
- 地域の方々を教育活動推進員として依頼し、昔遊びや工作など様々な体験活動を行っている。
- 活動時間内に宿題、学習のサポートをする学習支援は、保護者に好評である。
- ボランティアにとっては、子供たちの成長を感じることができるとい喜びにつながっている。

(放課後子供教室)

市町村名	坂戸市			
実施教室数	3 教室	対象学校数	3 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	2 教室	コーディネーター数	3 人
	うち連携型	1 教室	平均年間開催日数	31 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	クリスマス会（片柳げんき教室）				
----------	-----------------	--	--	--	--

登録児童数	52 人	登録スタッフ数	14 人	児童クラブ連携状況	一体型
-------	------	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 季節の行事やイベントについて子供たちの興味や関心を深めるために、年間を通じ、七夕やハロウィーン、節分などのプログラムを実施している。今回は、その一環としてクリスマス会を企画した。
- プログラムにクリスマス飾り作りなど、子供たちに体験してもらった内容を入れることで、主体的に参加できるようにした。
- 活動前と終了後にスタッフ会議を行い、その日の活動について打合せを行っている。スタッフ全員が共通認識を持つことで、子供たちのその日の様子がわかり、安全管理にも役立っている。



【季節に応じたプログラム】

取組内容

- クリスマス会では、子供たちにキャンドル作りを体験してもらったほか、マジックショーを鑑賞し、簡単なマジックを教えしてもらったりして楽しんだ。最後には、スタッフが扮するサンタさんからプレゼントが配られ、子供たちの嬉しそうな表情が印象的であった。



【子供たちもマジックに挑戦】



【キャンドル作り】

成果

- 子供たちが楽しみながら、季節の行事やイベントについて理解を深めることができた。
- 子供たちにとって、他の学年や普段遊ばない友達、地域の大人と接することで、友達や遊びの幅が広がり、思いやりや人間関係を学び、コミュニケーション能力を高めるよい機会となっている。
- 学校関係者の協力により、隣接した高校の生徒にスタッフとして協力を呼びかけており、今後子供たちの遊びも広がっていくことと思われる。



【サンタさんからプレゼント】

第5 「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）

市町村名	鶴ヶ島市			
実施教室数	12 教室	対象学校数	8 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	7 教室	コーディネーター数	12 人
	うち連携型	5 教室	平均年間開催日数	120 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	学習支援と季節のイベント（鶴二宿題サロン）				
登録児童数	29 人	登録スタッフ数	11 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- 鶴二宿題サロンは、毎週月曜日15時から17時まで学校内の教室で開催している。また、長期休業中の午前中についても、不定期で実施している。
- 学習のみならず、季節のイベントなどを実施することで、宿題サロンへの参加促進や継続的な参加につながるよう努めた。
- 放課後子ども教室とは別事業である、子供たちが自由な遊びと遊び場を作る「プレーパーク」活動と連携して、活動のバリエーションを増やしている。
- 保護者が送迎等に来る際に情報交換を行うことにより、保護者と子供の情報共有が出来、子供の対応や指導に役立っている。

取組内容

(1) 宿題サロンについて

子供たちは、地域の方々による見守りのもと、学校の宿題や用意された学習プリントなどに熱心に取り組んでいる。

効果的な学習に結び付けるため、学習教材の選択の際は、教職経験者などの意見を取り入れている。

学習中は、中学年の子が低学年の子に優しく教えてあげる様子も見られ、和気あいあいと学習に取り組んでいる。

(2) 季節のイベント等について

年間行事として豆まきやクリスマス会などを実施し、子供たちが楽しめるイベントを取り入れた。季節や子供たちの要望に応じ、水遊び、そうめん流し、バルーン遊び、餅つきなど、毎回テーマを決めて子供たちに楽しんでもらう。

餅つきでは、スタッフの丁寧な指導のもと、低学年の子供たちも安全に活動することができた。



【宿題サロン】



【クリスマス会】

成果

- 学力の向上、勉強の習慣付けになった。
- 放課後における子供の安全・安心な居場所となり、保護者からの期待に応えることができた。
- 子供の宿題に、保護者だけではなく地域の大人も関わることで、地域で子育てをしていく良い取組となった。
- 地域の人材も見つけられ、新たな担い手を発掘することができた。

(放課後子供教室)

市町村名	日高市			
実施教室数	6 教室	対象学校数	6 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	5 教室	コーディネーター数	10 人
	うち連携型	1 教室	平均年間開催日数	10 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	子どもたちのアイデアを活かしたプログラム (台っ子アフターすく～る)				
登録児童数	66 人	登録スタッフ数	23 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- コーディネーターを中心に保護者有志として参加している実行委員の意見を、多くの企画に取り入れた。
- 実行委員会の一員（会長に委嘱）でもある地元自治会の協力を得た教室を取り入れた。
- 小学校のみならず、隣接する公民館施設を使った教室を実施した。
- 大人（実行委員）の考えた企画だけではなく、高学年児童による企画会議を実施し、子供たちの発案による教室を企画した。

取組内容

例年、第1回目の教室において、子供たちが1年間着用する名札を各自が思い思いにデコレーションして作成している。今年度は、班の目印となる番号入りのうちわを班ごとに子供たちが手作りした。各班とも、色を塗ったり、シールを貼ったりして、愛着がわくうちわができた。

第2回目の教室では、風船を使った科学実験を行った。第4回目の教室では、恒例となっているフェイスペイントを実施した。この時は、子供のみならず、スタッフも自分の顔にペイントし、あるスタッフは子供たちのキャンパスと化していた。

年末に行った第7回目の教室では、クリスマス会を実施。手作りのケーキを食べたり、ゲーム形式で子供たちの手作りによるクリスマスカードを添えたプレゼントを交換したりして楽しんだ。



【第1回 オリエンテーションの様子】

成果

大人の企画したものを用意するだけではなく、子供たちのアイデアを活かした教室も取り入れたことにより、子供たちが、より楽しく過ごすことができた。また、子供たちに好評なことはもとより、スタッフとして協力をいただいた地域の人たちからも「子供たちに気軽に声かけができるようになった」、「地域の子供たちと親しく、身近に感じられるようになった」等、交流の場としても良い機会となっている。

また、参加児童の保護者からは「家庭や学校の授業では体験できないことができる。」「新しい友達（大人を含め）ができました。」「子供が教室の様子を家で楽しそうに話してくれ、親子の会話も増えた。」等の感想が聞かれた。

課題として、今後、この事業を継続していくためには、地域の指導者（実行委員、コーディネーター等）や協力者（ボランティアスタッフ等）の確保が最重要課題と考える。また、地域の善意で支えられているこの事業を進めるため、コーディネーターをはじめとするスタッフに、過度の負担がかからないような運営方法や事業展開を検討していく。



【第7回 クリスマス会の様子】

市町村名	ふじみ野市			
実施教室数	13 教室	対象学校数	13 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	13 教室	コーディネーター数	13 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	32 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	グラウンドゴルフ（さぎの森小学校放課後子ども教室）				
登録児童数	49 人	登録スタッフ数	8 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- グラウンドゴルフという、なかなか体験できない活動を行うことで、今まで体験したことが無いことにも興味を持ってもらう目的で実施した。
- 公式なルールではなく、子供にあったルールづくりを行った。
- 子供たち全員にスティックを配るのではなく、グループに1本にする、必ず1グループに指導員が1人付くなど、安全面に配慮した上で進めた。

取組内容

(1) 実施内容

指導員が講師となり、基本的なルール等について説明して行った。公式なルールではなく、子供にも理解しやすいルールを考えて実施した。

(2) 事前準備

当日使う用具については、教育委員会で手配し、当日の実施方法等については、指導員で検討し決定した。

(3) 当日の様子

40人の子供たちが参加し、それぞれグループに分かれコースを回った。はじめは乗り気でない子もいたが、やり始めると夢中になり取り組んでいた。

はじめて行う子供たちは、力の加減等が分からず、上手く玉を打てなかったが、何度か繰り返すうちに加減等を覚えて、上達していた。

安全面を考えた方法で行ったので、安心して進めることができた。



【早くやりたい】

成 果

- 参加した子供たちからは「やってみると面白かった。またやってみたい。」といった声もあった。
- 今回の活動を通じて、今まで体験したことが無いことにチャレンジする気持ちを育むことができた。
- 来年度以降の継続実施に向けて、一度経験したことのある子供たちを、どのように再度活動させるか、実施方法等を検討する必要がある。



【ナイスショット！】

(放課後子供教室)

市町村名	毛呂山町			
実施教室数	2 教室	対象学校数	4 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	2 人
	うち連携型	1 教室	平均年間開催日数	32 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	子ども教室 (放課後子供教室)				
-----------	-----------------	--	--	--	--

登録児童数	27 人	登録スタッフ数	9 人	児童クラブ連携状況	その他
-------	------	---------	-----	-----------	-----

ポイント

- 子供たちにとって安心・安全な活動拠点を設け、居場所づくりを推進している。また、土曜日の午前・午後と長時間実施しているが、学習プログラムが多岐に渡っており、子供たちに興味を抱かせるよう工夫している。
- 地域の人々の参画を得て、子供たちとともに勉強やスポーツ、文化活動、外国人講師による生きた英語の習得等の取組が実施できている。



【実験教室：空気の力を見てみよう】

取組内容

(1) 取組の経過

「子ども教室」は平成21年7月に開設し、今年度で8年目を迎えている。東公民館を活動拠点とし、町内4小学校の子供たちの参加登録を得て、月3回程度土曜日の午前10時から午後3時まで実施している。

(2) 運営体制

コーディネーター、教育活動推進委員、教育活動サポーターについては、類似の事業で子供たちに関わっていたスタッフ及び大学に協力を依頼し、運営している。

(3) 活動内容

午前は、学校での勉強の予習・復習・宿題等の学習支援、また、百ます計算・子供川柳・留学生による英語教室を行っている。午後は、習字、工作、絵画、陶芸等の体験学習を実施している。

ヒップホップダンスの成果は、毎年2月に行われる東公民館ふれあい文化祭舞台部門で発表している。大人の舞踊サークルや民踊サークルに混じりながらも堂々とした演技は、文化祭の目玉となっている。昨年はSHINeeの「Your Number」を19人で踊り、多くの喝采を浴びた。



【ヒップホップダンスの練習】

成果

- アンケート調査の結果から、教室の学習プログラムにより学校や家庭ではできない様々な体験をすることで、社会性・自主性・想像性が身に付いた、他校や異学年の友達との交流を通してコミュニケーションが図られた、1年間参加し、落ち着いて活動ができるようになり成長した姿が伺えた、等の感想が寄せられた。
- 親子のふれあいについては、子ども教室のことを家庭で話す機会が増え、親子のコミュニケーションが深まったと、多数の母親からの声を受け取っている。
- 来年度以降の実施継続に向けて、スタッフ、学校と調整を図るとともに、運営委員会を中心として、子ども教室と児童クラブの一体・連携型について検討していく。

市町村名	嵐山町			
実施教室数	1 教室	対象学校数	3 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	1 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	23 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	地域人材を活用した体験活動（放課後子ども教室「スイミー」）				
登録児童数	30 人	登録スタッフ数	5 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 地元の老人会の協力の下、サツマイモの苗植えや芋ほり、餅つきなどの季節を楽しめる行事を行った。
- 町のボランティアを活用したオカリナ教室やマジック教室を開催し、地元の人々の芸術活動に触れ、楽しい交流の時間を過ごした。

取組内容

- 平日の活動
（宿題、図工、オカリナ教室、マジック教室、人形劇鑑賞会、かがく教室 等）
平日活動は1時間と短いため、コーディネーターを中心に教育活動サポーターと連携した活動を展開。宿題、図工や自由遊びが中心である。
始業式や終業式前の短縮授業日を利用して、地元在住の講師を招いた事業も行った。
【かがく教室】
地元の私立中高一貫校の協力を得て、出張理科実験教室を実施した。
サイエンス部の先生と高校生の指導の下、チリメンモンスターを観察し分類。クリスタルレジンで、「ちりモン」のキーホルダーを作成した。
※ チリメンモンスターとは、チリメンジャコ（しらす）の中に入っている小さな生物のこと。

【高校生の先生とチリメンモンスターを観察中
白衣着用で博士気分「かがく教室」】

- 土日等の活動
（サツマイモの苗植え、サツマイモ掘り、せんべい工場見学、餅つき等）
活動時間が長く確保できるため、嵐山町の行政バスを利用した体験学習として工場見学や、地元老人会の協力の下、サツマイモの苗植えや収穫、餅つきを実施した。



【老人会の皆さんと「餅つき」】

成果

- 普段ふれあうことの少ないお年寄りに接することで、子供たちには親近感や敬慕の念を、老人会の方々には地域の子供の健やかな成長の一翼を担っているという社会参加ができ、両者にとって得るものが多い活動となった。
- シニアの方々の経験や技能を活用し、地域で子供たちの成長を見守るという気運の構築ができた。
- これから積極的に地域と連携する事業を行っていこうとする私立高校の協力を得て、高校生と交流する機会を設けることができた。

(放課後子供教室)

市町村名	川島町			
実施教室数	6 教室	対象学校数	6 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	1 教室	コーディネーター数	6 人
	うち連携型	5 教室	平均年間開催日数	12 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	餅つき体験・稲わらリース作り (伊草っ子くらぶ)				
登録児童数	29 人	登録スタッフ数	24 人	児童クラブ連携状況	連携型

ポイント

- 伊草っ子くらぶは、地域の方々に提供して頂いている「伊草っ子ファーム」と呼ばれる畑や田をベースとして、農産物の育成・収穫・調理といった活動を、子供たちとスタッフが1年間を通して行うことで、「地産地消」「食育」「伝統の味の伝承」を推進している。
- 地域の方々が必要な物品等を持ち寄って活動を行うことで、子供たちとの交流以外にも、地域の大人同士の繋がりが活性化している。
- 「食」に関連した活動であるため、消毒、手洗い、マスク着用等について、子供たちのみならず参加した大人にも徹底するなど、衛生面の配慮に努めた。

取組内容

(1) 事前準備

餅つきで使用使用する餅米、稲わらリース作成で使用使用する稲わらや、調理で使用使用する黒豆、大根などの材料は全て、子供たちとスタッフが田植えや野菜収穫といった過去の活動を通じて収穫したものである。その他、餅つき用の臼や杵、餅つき機などは、地域の方々の厚意によってお借りしたものである。

(2) 実施内容

子供たちは、「餅つき」、「稲わらリース作成」、「調理」を【稲わらリース作りの様子】を行うため、3グループに分かれる。「餅つき」グループは、子供たちが交代で餅をつき、「稲わらリース作成」グループは、活動で育てた稲の稲わらでリースを作った。「調理」グループは、活動で収穫した黒豆を炒ったり、大根をおろすなどをして「きな粉餅」や「からみ餅」の調理にあたった。いずれの活動も、それぞれの活動が得意なスタッフの指導のもと行われる。最後に子供、スタッフが揃ったところで、でき上がった餅をおやつとして食べる。

(3) 当日の様子

当日は、21人の子供と21人の地域のボランティアが参加し、楽しく餅をついたほか、熱心な指導のもと稲わらリース作りに励んだり、自分で育てた農産物を調理するなど、様々な活動を楽しんだ。子供もスタッフも、全員で作ったお餅に舌鼓を打ち、満足した様子であった。また、活動中には、大人のスタッフが昔の暮らしについて話す場面もあり、子供たちも興味津々で聞いていた。



成果

- 今までの活動を経て、収穫した農産物をふんだんに使った餅つきができた。農産物を一から育てて収穫し、それを調理して食するという経験を通して、子供たちは「食」について考えることができた。
- 徹底した衛生面の配慮のおかげで、問題が発生することなく、無事に餅つきを終えることができた。
- 1年間の活動の集大成とも言える今回の教室を通して、子供たちと地域のスタッフ、今まで協力いただいた学校関係者の繋がりがより一層深まった。

市町村名	吉見町			
実施教室数	2 教室	対象学校数	2 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	1 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	60 日
	うちその他	2 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	多様な体験活動と自主学習（北小放課後こども教室）				
登録児童数	36 人	登録スタッフ数	7 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- スムーズな運営ができるよう、年度当初に指導者研修会を開催し、意見交換や指導方法について検討、確認することにより、充実した指導体制を確立している。
- 教室は4～6人の班を編成して行っている。班編成は縦割りで編成することにより、仲間意識がより明確化され、上級生が下級生の面倒をみることで、児童が一体となって活動を進めている。
- 開講式終了後に保護者会を開催し、事業の説明と協力依頼を行うことにより、事業に対する理解と協力が得られている。また、年度末には児童・保護者及び指導者にアンケート調査を行い、意見や要望を受ける機会を設けている。
- 教室の開催日は、指導者が学校まで迎えに行き、帰宅は保護者に児童の迎えをお願いしている。
- プログラムについては児童や保護者、及び指導者からのアンケートを参考にしながら、マンネリにならないよう工夫をこらしている。また、前半は体験活動、後半は自主学習の時間としてメリハリのある活動を心がけている。

取組内容

- (1) レクリエーション・軽スポーツ・文化活動等
「軽スポーツ」「工作」「彩の国21世紀郷土かるた」などといったバラエティに富んだ幅広い活動を行っている。

毎年行っている「かかしづくり」では、身近な材料であるペットボトルを材料として作成している。児童はスタッフの協力のもと、作成した骨組みに新聞紙などで肉付けをし、古着を着せるなど、それぞれの班で協力して楽しくかかしを完成させた。

また、完成したかかしについては、毎年近くの田んぼに設置するため、地域の方々にも活動の成果を見ていただける良い機会となっている。

- (2) 自主学習

自主学習では、学校から出された宿題などに取り組んでいる。同級生同士で答え合わせをしたり、上級生が下級生の面倒をみたりしながら、和気あいあいとした雰囲気の中で学習が進められ、宿題が終わると各自で読書をするなど自主的に学習を行っている。



【かかしを立てました】



【彩の国21世紀郷土かるた】

成果

- アンケートの結果から、多くの保護者より「参加させてよかった」という声が寄せられた。特に、家庭ではできない様々な遊びや軽スポーツなどを通じて集団で過ごすことができるとともに異学年の子と交流し、仲よくなれるといったことに高い評価をいただいている。

(放課後子供教室)

市町村名	ときがわ町			
実施教室数	1 教室	対象学校数	1 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	1 人
	うち連携型	1 教室	平均年間開催日数	190 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	萩いき野球（萩ヶ丘いきいき教室）				
登録児童数	28 人	登録スタッフ数	7 人	児童クラブ連携状況	連携型

ポイント

- 学校との連携を図り、授業や学校行事との調整を行った。
- 教育活動推進員と学童スタッフとの連絡を取りながら、日々の放課後の時間帯を安全・安心に過ごせるようになった。
- 学年や性別を問わない“萩いき野球”を定期的実施し、体力向上とスポーツマンシップの育成を図った。

取組内容

【日々の活動】

萩ヶ丘いきいき教室は、放課後に毎日実施しており、日々の活動は自由遊びが中心である。
自由遊びに加え、特別活動として運動場でレクリエーション（凧揚げなど）を行った。
萩ヶ丘いきいき教室への参加を希望する学童の子供たちも一緒に参加するなど、子供たちは和気あいあいと活動している。

【萩いき野球】

原則週に1回、“萩いき野球（軟式野球）”を実施している。（年に40回程度）
地域の方々が講師となり、キャッチボールをはじめ、野球を通じた基礎体力づくりを行っている。
子供たちは、野球を通して、近年低下しているボールを投げる力を付けるとともに、チームワークやスポーツマンシップを学んでいる。
また、保護者が子供と一緒に参加したり、町内のスポーツ少年団と合同で練習をするなど、家庭や地域との連携も図っている。

成果

【日々の活動】

- 学校を核として、当事業と学童保育がうまく連携できた。
- 日々の居場所づくり、放課後の遊び場として機能できた。

【萩いき野球】

- 日々の活動から変化のある活動ができた。
- 少人数の学校でありながら、学年や性別を1つにして実施することで、多人数のチームプレーを体験できた。



【凧揚げの様子】



【キャッチボールをする子供たち】



【萩いき野球楽しいな！】

(放課後子供教室)

市町村名	横瀬町			
実施教室数	1 教室	対象学校数	1 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	1 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	250 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	菊づくり (横瀬町放課後等子ども教室)				
登録児童数	40 人	登録スタッフ数	37 人	児童クラブ連携状況	その他

ポイント

- 小学校課業日の放課後に実施しているため、参加希望者が多数いる。活動場所やスタッフ等に限りがあることから、放課後の時間が長い低学年を優先的に受け入れている。
- 長期休業日は、参加申し込みを取り直し、休業中の行事や持ち物、約束ごと等を記載した便りの特別号を発行する。
- 曜日ごとの日課表を作成し、学習時間・遊びの時間等を設けている。子ども教室内の約束毎もあり、安心・安全な居場所としている。
- 学校応援団と連携し、月に2回程度の身近な材料を使用した遊べる工作や軽スポーツ等の行事を実施している。
- 夏季休業中には、中学生、高校生、大学生がボランティアとして協力している。

取組内容

放課後の時間が長い2学期末や夏休みには、学校応援団の講師によるおまんじゅう作りや、菊づくり、地域の老人クラブの協力による昔あそびを実施している。その他エコバックや絵本づくり、点字カルタ、手話、かんたんクッキングなど、様々な体験活動を開催している。

【菊作り】

学校応援団のスタッフでもある、地域の菊作り愛好会と連携して実施しており、毎年恒例の行事となっている。

愛好会のご厚意で、子供たち一人一人に菊苗を提供いただき、子供たちは指導を受けながら植え付ける。

夏休み中、子供たちは学校に登校し自分の菊に水やりを行う。水やりについては、自分の仕事として自覚し、責任を持って取り組んでいる様子が見られる。

ある程度成長した段階で、愛好会スタッフの方の優しく丁寧な指導のもと、輪台付けを行う。

子供たちは熱心に説明を聞き、自分が育てた菊花を前に嬉しそうに作業を行っていた。町の文化祭にも出品したり、役場や保育所、社会福祉協議会などに展示したりして、好評であった。



【エコバッグづくり】



【菊の輪台付け】

成 果

- 入室後、学習時間を確保したことにより、学習習慣の定着が図れるようになった。
- 学年を超えての活動をする中で、約束毎の徹底や安全で楽しい遊びが展開できている。
- 「学校応援団」と名簿を共有することにより、積極的な人材活用が図られている。
- 協力していただいた地域の方々からは、「子供たちと関わると元気をもらえる。」「毎年楽しみにしている。」等の感想が寄せられている。学生ボランティアは、「子供たちをまとめるのは難しいけど、良い経験になった。」という感想があった。

(放課後子供教室)

市町村名	小鹿野町			
実施教室数	4 教室	対象学校数	4 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	3 教室	コーディネーター数	2 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	28 日
	うちその他	1 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	心も体もすくすく講座 (長若小学校いきいき教室)
-----------	--------------------------

登録児童数	9 人	登録スタッフ数	15 人	児童クラブ連携状況	その他
-------	-----	---------	------	-----------	-----

ポイント

- 登録スタッフは、民生児童委員を中心とした方々に依頼し、地域とのつながりを密にした。
- 1年生を対象として、実施時間を金曜日の第5校時に設定した。
- 体育館をいつでも使用できるようにし、児童が思いきり活動できるようにした。
- ホームページのブログで、活動の様子を公開し、保護者や地域への情報提供を行った。

取組内容

(1) 実施内容

本教室は、「いきいき教室」という名称で6月から3月まで年間24回の計画で開催されている。毎回2人程度のスタッフが、児童の実態を考慮した遊びを実施している。具体的には、「紙飛行機作り」「車の模型作り」「コマ作り」「鳥作り」「サイコロパズル作り」「紙風船作り」「クリスマスツリー作り」「風船バレー」「魚つりゲーム」「輪投げ」「的当て」「コマ回し」「紙芝居」など、工作活動や体を使う遊びを行っている。

(2) 事前準備

年度当初、登録スタッフによる打合せ会を行い、担当日を分担した。昨年度の活動内容を例示し、今年度の活動内容を考える資料にしてもらった。作成した登録スタッフの住所や電話番号の一覧を使った担当者間の打合せで、準備してほしい物がある場合は、学校へ連絡してもらい、当日までに準備した。

(3) 当日の様子

スタッフは、児童や児童の家族のことを良く理解していた。児童も知っている人に教えてもらって、安心していきいきと遊んでいた。スタッフも、いきいきと指導しており、この教室の意義をよく理解し指導してくださった。また、教室又は体育館でできる内容としたので、雨天等の影響はなかった。



【コマ作り】



【魚つりゲーム】

成果

- 児童は、創意工夫に富み、各スタッフの長年の経験を生かした遊びを毎回楽しみにしている。夢中になって遊ぶ中で、様々な体験や経験を重ね、知識や技能が身に付いている。
- 1年生は他学年の児童と集団下校することができ、下校時における不審者対策の一環となっている。
- 地元のスタッフの方々と交流を深めることができ、学校の教育活動への理解も深まった。「開かれた学校」づくりの一助となっている。

市町村名	上里町			
実施教室数	5 教室	対象学校数	5 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	0 教室	コーディネーター数	8 人
	うち連携型	5 教室	平均年間開催日数	50 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	上里東小学校のびっこ教室				
登録児童数	40 人	登録スタッフ数	16 人	児童クラブ連携状況	連携型

ポイント

- 年間を通して、放課後子ども教室のサポーター・ボランティアの確保が急務であるため、子供の体験学習サポーター養成講座「子供と一緒にあそび隊」を実施し、サポーター・ボランティアの確保に努めた。講座で学んだ成果をのびっこ教室で発揮をしてもらうことができた。

取組内容

(1) 実施内容

上里町放課後子ども教室（上里東小学校のびっこ教室）は、放課後の空き教室等を利用し、週2日間、子供たちの放課後の居場所を設け、宿題や読書、工作等、様々な遊びを通して異年齢交流を行うものである。

上里町では、五小学校のうち四小学校で放課後子ども教室（のびっこ教室）を開設し、来年度29年度には全小学校で開設予定である。

(2) のびっこ教室プログラム

放課後、実施教室に集合し、宿題を各テーブルで行う。宿題を終了した生徒から、その日の活動（のびっこタイム）にはいり、その日のボランティアが考えた活動を行う。

代表的なものとしては、絵手紙、工作、シャボン玉、バルーンアートづくりがある。

最後に、体育館に移動し、レクリエーションタイムを行い、ドッジボール・長縄等のレクを行い、終了となる。

また、のびっこ教室プログラムに、放課後児童クラブの子供たちを交え、プログラム実施をすることあり、連携の強化にも努めている。

(3) 対象児童

各小学校1年生から4年生。各小学校定員人数。



【体育館にてレクリエーション】



【学習タイム・宿題の様子】

成 果

- 学期終了後、サポーター・ボランティアにアンケートを実施。子供たちと接することにより、自分たちも子供たちに力をもらった等、好意的な意見が多かった。
- 子供たちの放課後の居場所づくり、サポーター・ボランティアの社会的参画を促進できることにより、放課後子ども教室・のびっこ教室がWIN-WINの関係になっている。

(放課後子供教室)

市町村名	杉戸町			
実施教室数	2 教室	対象学校数	2 校	
連携状況 児童クラブ	うち一体型	2 教室	コーディネーター数	3 人
	うち連携型	0 教室	平均年間開催日数	35 日
	うちその他	0 教室		

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	①季節を感じる工作 ②放課後児童クラブとの連携 (杉戸第二小学校放課後子供教室)				
登録児童数	32 人	登録スタッフ数	6 人	児童クラブ連携状況	一体型

ポイント

- (1) 季節ごとに楽しめるプログラムの実施
- (2) 放課後児童クラブとの連携事業の実施

取組内容

(1) 季節ごとに楽しめるプログラムの実施
杉戸第二小学校放課後子供教室では、スタッフが講師となり、シュシュ作りやうちわ作りなど、工作を中心とした事業運営を行っている。

その中で、七夕工作・縁日お楽しみ会(7月)、ハロウィン工作(10月)、クリスマス工作(12月)、バレンタインクッキング(2月)、雛祭工作(3月)など、季節を感じることの出来るプログラムを多く取り入れるよう工夫している。

今年度は、新たにLEDライトを使ったクリスマス工作を行った。子供たちは紙コップでカバーを作り、LEDライトにかぶせ、完成したライトが光る様子を楽しんでいた。

工作に初めてLEDライトを取り入れたことで、大変興味を持って作業に取り組んでいた。

(2) 放課後児童クラブとの連携事業の実施

2月に体育館でドッジボールとフロアカーリングを行う。実施に向けて、コーディネーターを中心とした放課後子供教室のスタッフと、放課後児童クラブの指導員による打合せを行っている。



【シュシュ作り】



【LEDライトを使ったクリスマス工作】

成果

学校、PTA役員、地域の方々の参画を得て、コーディネーター等を中心に、子供たちに安心・安全な活動の場を提供している。

継続的に参加している子供も多く、異学年の子供同士や子供と大人とのつながりもより深められている。

勉強や工作、スポーツ、地域住民との交流活動等、様々な体験学習を実施することで、子供の知的好奇心を満たすよう努めている。

また、前年度と異なるプログラムを取り入れることで内容の充実を図っており、子供たちは毎回の教室をととても楽しみにしている。

市町村名	熊谷市		
実施教室数	1 教室	対象学校数	45 校
コーディネーター数	1 人	平均年間開催日数	20 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	ウィークエンドサイエンス		
登録 児童生徒数	市内の小中学生	登録 スタッフ数	34 人

ポイント

- 本事業の目的は、「週末を利用し、学校の理科室等で、科学や自然の不思議さ、神秘性に触れる実験やものづくりを行い、その楽しさを味わう。また、身近な自然の中で生き物等に触れ、環境活動への興味・関心を高める」である。
- 理科主任会の協力を得て、小・中学校の理科教員が中心になって、講師を務めている。
- 地域の人材活用では、教員OBなどの理科教育に見識のある方3人が講師の相談役として、計画段階から当日の運営まで関わっている。
- 会場は市内の小・中学校である。参加者の負担を考え、市内各地域の会場で実施している。

取組内容

(1) 実施内容

第14回ウィークエンドサイエンス「進め！ポンポン船」

(2) 活動の概要

市内の小学校の理科室でポンポン船を作った後、家庭科室のシンクを使って船が進む様子を観察した。この体験を通して、水蒸気の圧力で推進力を得る仕組みについて学習した。

(3) 参加した保護者の感想

- ・ 子供の頃に何度か作った経験があり、とても懐かしく楽しみながら参加させていただきました。工作の方法もよく考え抜かれていて分かりやすかったです。
- ・ ポンポン船を自分で作ることができたことが驚きとともに、とても楽しい思い出になりました。楽しく温度の秘密が学べてよかったですと思います。



【ポンポン船を観察する様子】

成 果

- ベテランの先生が若手の先生を誘ってくださるため、講師の後継者が育っている。
- 運営方法や活動内容を毎年改善してきたので、活動内容と学習内容が精選されてきている。
- 親子参加型の体験活動を主体にしているため、保護者に対しても科学に触れる機会を確保することができる。また、親子の関わりを深める一助となっている。
- 小・中学校を会場に使用しているため、備品の借用が容易である。その結果、消耗品以外の経費は、ほとんどかからずに事業が実施できている。



【音の不思議を探る活動の様子】

(土曜日の教育支援)

市町村名	所沢市		
実施教室数	1 教室	対象学校数	1 校
コーディネーター数	1 人	平均年間開催日数	50 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	体育館の用具を活用した活動等（所沢小学校ほうかごところ）		
登録児童生徒数	666 人	登録スタッフ数	14 人

ポイント

- 児童の自主的な活動を尊重し、異年齢間の遊びや学びを通じた交流を促進している。
- SNSやインフォメーションコーナー、「ほうとこたより」を活用して、保護者への連絡や地域への情報発信を行っている。
- スタッフ等の人材は、運営委員会の発掘による地域ボランティアや、小学校と連携している近隣大学・高校の学生ボランティアによって確保されている。

取組内容

(1) 体育館の用具を活用した活動

小学校の体育館を利用し、クライミングロープや、卓球など体育館の用具を活用した活動を行っている。参加児童数に対し、スタッフを十分に配置することで、目の行き届いた見守りを行うことができ、児童は自由に思いっきり体を動かすことができている。

(2) 長期休業中のプール活動

夏季期休業中には、学校のプールを借りて活動を実施している。実施日数は例年10日程であるが、13:00～15:00の時間帯で、低学年（1・2年生）と中・高学年（3～6年生）に分かれて行っている。その日は、スタッフや学生ボランティアの増員を図り、安全面の配慮も行っている。

(3) 保護者へのインフォメーション

体育館の玄関にインフォメーションコーナーを設置したり、「ほうとこ」カレンダーを携帯電話やスマホ等で閲覧できるようにしたりして、中長期的な活動のお知らせを行い、「ほうかごところ」の活用の充実を図っている。



【“ほうとこ”カレンダー】

成果

- 高学年の児童が率先してリーダーシップを取り、縦割りの関係で遊ぶ姿が随所に見られる。また、異年齢の友達との遊びを通して、コミュニケーションのとり方を学び、自分たちで問題を解決できるようになってきている。
- 様々な広報媒体を活用して、保護者に活動の予定や状況をお知らせしていることにより、本事業で活動する児童も定着してきている。



【クライミングロープ】



【卓球を楽しむ子供たち】

市町村名	東松山市		
実施教室数	3 教室	対象学校数	2 校
コーディネーター数	5 人	平均年間開催日数	14 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	English 寺子屋		
登録児童生徒数	73 人	登録スタッフ数	22 人

ポイント

- 小学校中学年・高学年児童の外国語を用いたコミュニケーション能力の基礎を養うとともに、外国語を通じて、体験的に理解を深める活動をより多く取り入れることを目指した取組で、桜山小学校の第3学年～第6学年の希望者を対象として実施している。
- 小学校と中学校の連携を推進する市の「小中連携教育特認校制度」において、桜山小学校と白山中学校（ともに隣接）が実施している目玉となる取組の1つである。
- ALT派遣会社の協力のもと、実施プログラムの作成や指導スタッフの確保を行っている。
- ボランティアに学生が多いことを考慮し、LINEを使って出欠の確認を行えるようにしている。

取組内容

(1) 実施内容

毎回テーマを決め、English 寺子屋指導案を作成している。指導案には、Greeting、Warm-up から始まり、様々な活動を用意し、体験的に英語に触れられるような計画を立てている。

夏休み前にはE寺夏祭り、ハロウィンやクリスマスの時期には、その時期に見合った様々な活動を用意し、子供たちが楽しんで取り組めるような工夫を行っている。



【テーマに沿って、体験的に活動を行っている様子】

(2) 事前準備

近隣の大学・学習塾等にボランティア募集のプレゼンテーションを行い、ボランティアの人数確保を行った。当日の参加人数を把握するために、LINEやメール等を使い、実施日の2週間前にスケジュールの登録をお願いしている。

募集予定人数の40人を大幅に超える73人の応募があったため、クラスを3年生、4年生、5・6年生の3つに分け、子供たちによりきめ細やかな対応をしている。

成 果

- ボランティアの多くは近隣の大学生で、将来的には子供と関わる仕事に就きたいと考えているため、子供と交流する良い機会になっている。
- 学生以外の地域ボランティアの参加も若干増えているが、安定したボランティアの確保のためにも、様々な方をお願いできる体制を整えることが課題である。

(土曜日の教育支援)

市町村名	深谷市		
実施教室数	19 教室	対象学校数	19 校
コーディネーター数	19 人	平均年間開催日数	33 日

【活動事例の紹介】

取組名(教室名)	小学生学習支援事業「がんばル〜ム」(榛沢小学校「がんばル〜ム」)		
----------	----------------------------------	--	--

登録児童生徒数	41 人	登録スタッフ数	6 人
---------	------	---------	-----

ポイント

- 榛沢小学校では、参加児童を一つの教室に集め、6人の「ちいきの先生」で自主学習の支援を行っている。先生方が個別に勉強を見ることで、子供のペースに合った学習をすることができる。
- 「ちいきの先生」は、子供と接するのが好きな方や、教員または学習塾等で子供を教えた経験が豊富な方等から一般公募し、教育委員会の面接を経て、登録を行っている。
- 子供の安全を確保するため、避難訓練を実施した。
- 「がんばル〜ム」の活性化に向け、勉強だけでなく運動も取り入れる目的で、市スポーツ推進委員による「軽スポーツ教室」を実施した。今年度は「ドッジビー」を教えてもらい、2試合を行った。子供たちは初めてのドッジビーに興味津々で、とても好評だった。

取組内容

- 活動では、主に算数と国語を中心に個別学習の指導・相談を行っている。
- 学習は市販のワークを使用し、学習支援は一般公募による「ちいきの先生」が指導を行う。
- 活動は、様々な学年の子供たちが一緒に学習を行い、子供同士で分からないところを教え合うなど、異学年交流の場となっている。
- 学校独自の活動として、ハーフタイム(休憩時間)の自由遊びや運動、学期末にお楽しみ会等を実施し、異世代・異年齢の交流を図っている。

成果

完全学校週5日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。

子供たちへのアンケートでは、「参加して良かった」や「来年度も参加したい」との回答が多く見られ、とても好評であった。

勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。



【学習の様子】



【運動教室「ドッジビー」】

市町村名	上尾市		
実施教室数	6 教室	対象学校数	22 校
コーディネーター数	6 人	平均年間開催日数	4 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	子ども科学教室～空気で遊ぼう～（公民館子ども教室）		
登録 児童生徒数	20 人	登録 スタッフ数	5 人

ポイント

- 定員16人を超える応募があり、講師のご厚意で定員を4人増やし20人での教室開催となった。
- 上尾市図書館子どもの読書活動支援センターで活動するボランティアグループ「サイエンスの杜ワンダーワンダー」のスタッフ等、計5人での実施だった。
- 事前に講師から詳細な計画表を出していただくことで、計画通りに大変スムーズに開催することができた。
- 図書館と連携して実施することで、読み聞かせや関連書籍の紹介など、児童の理解を深める取組を行った。

取組内容

- (1) 見えない空気を捕まえる「空気クッション」
目には見えない空気を日々の生活に欠かせない道具を使って体感してもらった。自転車のチューブに空気を入れて空気のクッションを感じてもらったり、スポンジを水中で絞ると気泡が出てくる様子を観察するなどして、普段は目に見えない空気を体感してもらった。
- (2) 見えない空気を見る・感じる「ミニ空気砲作り」
ダンボールでミニ空気砲を作成。煙をダンボールに注入することで、見えない空気を見ることができ、空気の塊が進んでいく様子を観察した。
- (3) 実験に関連した絵本の読み聞かせ
ボランティアの方に、実験に関連した科学などの絵本の読み聞かせを行っていただいた。
- (4) 夏休みの自由研究のアドバイス
実験に関連した本を紹介するなど、夏休みの自由研究の参考になる情報を提供した。



【見えない空気を見てみよう】



【科学教室の様子】

成果

- 身近な空気を楽しい実験を通して学習し、理科の学習への興味を引くきっかけになった。
- 異なる学校、学年の児童との実験体験は、コミュニケーション能力の向上につながった。

(土曜日の教育支援)

市町村名	蕨市		
実施教室数	7 教室	対象学校数	7 校
コーディネーター数	7 人	平均年間開催日数	21 日

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	大学生や地域の方による学習支援 (わらび学校土曜塾)		
-----------	----------------------------	--	--

登録児童生徒数	171 人	登録スタッフ数	49 人
---------	-------	---------	------

ポイント

行政・家庭・地域が連携協力し、子供を育む環境づくりを推進する。子供たちの自主的な学習（宿題・課題・ものづくり）をサポートし、学ぶ楽しさを教え、学習習慣の定着や基礎学力の向上を図る。

事業実施にあたり、元教員の方が全体を統括する塾長（コーディネーター）を担っており、子供たちが持参した宿題やドリルの分からない問題を教える学習アドバイザーを大学生や保護者が務めているほか、地域の方を欠席者への連絡や出入り口の管理等を行う安全管理員（見守り役）として配置している。



【学習の様子】

取組内容

- 学校の休業日に開設するため、出入りがしやすい1階であること、冷暖房が完備されていること、お手洗いが近くにあることの条件を満たす教室を実施場所とした。
- 小学校の授業時間と同じく、1コマ45分とし、休憩（10分程度）を挟み、2コマで実施することにした。
- 毎月2回、土曜日の午前中に開設した。また、宿題の多い夏休み期間中にも実施した。
- 持参した学習が終わってしまった時のために、ドリルを準備したり、スキャナー付きのプリンターを設置したりした。
- 自主学習のほか、理科実験や押し花教室、絵手紙教室、ものづくり、百マス計算、将棋教室等、学習の中に遊びを取り入れた体験教室を、各学期に1回程度実施している。



【体験教室（理科実験）】

成果

- 参加者からは、「家よりも集中して勉強できた」「土曜塾に参加して勉強が楽しくなった」「家でもがんばって勉強したい」、また保護者からは、「土曜日を有意義に過ごせるようになった」「家でも自ら進んで勉強するようになった」「勉強の大切さを理解したようだ」といった意見が寄せられており、「子供たちに学ぶ楽しさを教え、学習習慣の定着を図る」という学校土曜塾の事業目的の達成に一定の効果があつた。
- 元教員の方が塾長を務めているため、学習面でのサポートはもちろんのこと、学校との連絡調整等が大変スムーズである。
また、地元大学生からのサポートが得られており、子供たちにとってお兄さんお姉さんの存在で親しみがわき、学習に対して積極的に取り組む姿勢が見受けられる。一方、大学生にとっては、地域の方との交流が図れたり、今後、地域活動を始めるきっかけになったりと相乗効果が期待できる。

市町村名	朝霞市		
実施教室数	6 教室	対象学校数	10 校
コーディネーター数	1 人	平均年間開催日数	12 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	科学あそび大好き！		
登録児童生徒数	40 人	登録スタッフ数	8 人

ポイント

- 本教室は、本市で一番人気の教室である。今年度工夫した点として、昨年とは会場校を変更し開催した。その理由として、一番人気ではあるが、地理的に参加者の申込みが偏っていたことがあり、より多くの児童が参加しやすい会場校へ変更することにした。
- また、講師から水場等が近くある教室にしてほしいとの要望もあったため、両方に該当する学校を選定した。さらに、講師の厚意から、より多くの参加者が参加できるよう25人程度の定員を40人まで増やした。

取組内容

- 実施内容は、講師の先生方が予め12回分のカリキュラムを決定し、概ねその流れに沿って授業を実施している。
- 事前準備は、当日実験等で使用する教材は、基本的に講師が用意してくる。また、プリントなどの配布資料は開催日前までに教育委員会が講師から依頼された資料を人数分用意し、教室開催日に講師へ渡すなど分担して用意している。
- 当日は、実験や自分たちの手で作る内容が多く、子供たちは毎回楽しく教室に参加している。
「ダチョウのタマゴでさいえんす！」では、本物のダチョウの卵を用意し、鶏や鶏の卵との比較や、乗っても割れない厚い殻の実験など、普段味わうことのできない貴重な体験をした。「スライムであそぼう！」では、自分達でスライムを作り、その出来上がる過程を勉強しながら遊んだ。このように、学校では習わないことを多く実施しているため、講師の話もよく聞いており毎回、和気あいあいとした雰囲気にあふれている。



【ダチョウのタマゴでさいえんす！】

成果

- 会場校を変更したことが功を奏し、市内ほぼ全域から申込みがあり、例年以上の参加があったのは大きな収穫であった。
- 子供や保護者のアンケートを見ると、色々な実験ができて楽しかったことや、家に帰ってからも楽しそうに学んだことを教えてくれたなど、好評な意見が数多く見受けられた。
- 講師からは、要望のあった1階で水場の近い教室に変更したため、非常にありがたくやりやすかった等の意見をいただいた。
- 来年度以降も、一番人気であり、また講師からも是非続けたいとの声をいただいている教室のため継続して実施していきたいと考えている。
- アンケート結果にもあるように、参加児童の保護者からも学校では教わらないことを教えてもらえる重要な「学習の場」であることを認識していただいております。また仕事等で両親が家に不在の子供たちの「居場所」としての認識も高まっているため、今後も様々な意見を取り入れつつ、より一層充実した教室にしていきたい。



【スライムであそぼう！】

(土曜日の教育支援)

市町村名	新座市		
実施教室数	17 教室	対象学校数	17 校
コーディネーター数	3 人	平均年間開催日数	13 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	西堀小・新開小-森の子くらぶ（新座っ子ぱわーあっぷくらぶ）		
----------	-------------------------------	--	--

登録児童生徒数	45 人	登録スタッフ数	29 人
---------	------	---------	------

ポイント

- 季節ごとの雑木林の状況にあった体験プログラムを考え、提供している。
- 異学年同士の触れ合いが促進されるよう少人数のグループを編成し、各グループに大人（指導者）が付く形で実施した。
- 近隣大学の学生にボランティアで活動に協力いただいた。
- キャンプなど、特に人手が必要なプログラムを中心に、多くの保護者の協力をいただいた。

取組内容

- 地域のボランティアの方々に指導していただき、雑木林探検、市外活動（北本自然観察公園）、ロープワーク、テント張り、キャンプ、からだ物差しゲーム、クラフト、竹ポックリ作り、花炭作り、バウムクーヘン作り、落ち葉プール作り、焼き芋作り、冬芽観察など、様々な活動を実施している。
- 特に、1泊2日で行われたキャンプについては、児童センターからテントを借り、テント張りを行うなど、普段の生活ではできない体験ができ、子供たちからも好評であった。

成果

- 自然の中で飛んだり跳ねたり、自然の素材を使って遊んだり考えたりする体験、異年齢同士の交流・協力体験を通して、自然の仕組みを理解し、大切にできる気持ちや自分で考え工夫する力を子供たちに身に付けてもらうことができた。
- 参加児童を対象としたアンケートでは、「森の子くらぶに入る前は、外あそびがきらいだったけど、この1ねんで、外あそびが好きになりました」など、自然体験に肯定的な声が聞かれ、多くの子供たちが参加して楽しかった旨の回答をしている。
- また、保護者からも「普段体験できないでプログラムがたくさんあって良かった」、「自分で荷物を準備し、何時に家を出るのか計画するようになった」、「色々な体験を通じて本人なりに成長したように感じる」という感想をいただき、くらぶの開設の目的に沿った一定の成果が得られている。



【雑木林探検中！】



【テント張りをする子供たち】

市町村名	久喜市		
実施教室数	11 教室	対象学校数	11 校
コーディネーター数	12 人	平均年間開催日数	7.5 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	親子で参加（しょうぶっ子ゆうゆうプラザ）
----------	----------------------

登録 児童生徒数	140 人	登録 スタッフ数	77 人
-------------	-------	-------------	------

ポイント

- 親子での参加を推進 土曜日開催（年間7回）
- 指導ボランティアとして、地元商工業者が参加
地元商工業者と連携し、地元企業の社会貢献活動の場を提供する。
- 子供の「やりたい気持ち」を大切に講座設定
「子供だから」といった講座設定をせず、大人でも「やりたい」と思える講座設定を行う。子供たちの安全性を配慮しながらも大人向けの内容で講座を開催した。



【親子でいっしょに、楽しく】

取組内容

講座名 アイシングクッキー

(1) 取組内容

アイシングクッキーは、ニューヨークで大人気のデコスイーツ。内容は、クッキーに砂糖でデコレーションをして作品をつくる。講師は、日頃大人向けの講座を開催している。保護者の実施委員の紹介でボランティアとして参加している。材料費は、一人500円

(2) 工夫した点

参加の募集をしたところ、希望者が70人集まってしまった。講師からは日頃は大人向けに少人数で教えている講座であり、人数制限を求められたが、最終的には子供たちの意思を尊重していただき、講師の理解を得て大人数での開催とした。普段の講座よりも活動サポーターを多く参加するようにした。



【かわいくデコレーション】

(3) 当日の様子

9月10日（土） 午前9時30分～午前11時

参加児童 39人 大人 13人（内活動サポーター9人（保護者中心））

講師の持ち前のコミュニケーション能力を発揮し、子供たちを集めて作業工程を説明するなど指導方法を工夫。低学年の子には、活動ボランティアがサポートをした。

成 果

- 「子供の能力に驚いた」と話していた講師は、学校の良き理解者となり、定期的な開催に協力いただけるようになった。
- 参加児童は、材料費のみで最新の技術を体験できた。
- 実施委員は、プロの講師にボランティアとして参加してもらうことで、活動の幅を広げられることが分かった。また、大人向けの講座であっても、活動サポーターを増員するなどの工夫で、子供たちが取り組むことができると分かった。
- 保護者がサポーターとして登録し、活動を支援してくれることにより、親子での参加につながり、触れ合いの時間を提供することができた。

(土曜日の教育支援)

市町村名	北本市		
実施教室数	12 教室	対象学校数	12 校
コーディネーター数	12 人	平均年間開催日数	10 日

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	中学校土曜補習事業 (北本市立北本中学校)
-----------	-----------------------

登録児童生徒数	45 人	登録スタッフ数	20 人
---------	------	---------	------

ポイント

- 本校の土曜補習授業は、進路選択に向けて学力向上をめざす3年生に対し、基礎学力の定着と発展的な問題による応用力の養成を行う2コースに分け実施している。
- 指導は本校教員が当たっているが、3年生の教員や5教科の教員だけでなく、1・2年生の教員や実技担当の教員もサポートし、学校全体で取り組んでいる。
- 5教科基礎コースと発展コースに分け、講座制をとっている。事前に希望をとり、生徒は自分の学力や興味にあったコースを教科ごとに選択できる。問題練習だけでなく講義を入れながら学習することにより、生徒の学習意欲を高めている。
- 講師は補習を主に進める主担当と、生徒の指導支援をする副担当が複数名当たり、少人数でティーム・ティーチングによるきめ細かい指導を行っている。

取組内容

- 実施日・回数 平成28年9月から12月まで
土曜日 9日間 全36講座

○ 実施内容

国語	基礎	作文 (条件作文やグラフや資料の読み取りを含む作文)
	応用	物語文などの文章読解
数学	基礎	1・2年生の復習(正負の数から)
	応用	1・2年生の復習と空間図形など3年分野
社会	基礎	歴史的分野、地理的分野の復習
	応用	入試問題を解く
理科	基礎	①入試問題の傾向②化学反応式を書く ③凸レンズの像について
	応用	入試問題演習(生物・地学分野)(化学分野)(物理分野)
英語	基礎	1・2年生の復習
	応用	長文対策



【作文の個別指導】

成 果

- 1つの講座を複数の講師が担当するため、個別の指導ができた。特に、学習につまずいている生徒は質問しやすく、理解不足や疑問の解決を図ることができた。
- 受験に向けた応用コースも設けたため、発展的な問題にも取り組めるようになった。また、詳しい解説が理解の助けになった。さらに、生徒同士で様々な考え方を共有し、思考力を向上させることができた。



【黒板を使って解説】

市町村名	三郷市		
実施教室数	5 教室	対象学校数	27 校
コーディネーター数	2 人	平均年間開催日数	96 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	①おもしろ遊学館講座（おもしろ理科実験教室） ②修学講座（中3入試対策教室）
----------	---

登録（参加） 児童生徒数	理科378人（のべ参加人数） 入試30人（のべ110人）	登録 スタッフ数	理科 24人 入試 35人
-----------------	---------------------------------	-------------	------------------

ポイント

- (1) おもしろ理科実験教室
- 「不思議を解いて科学を学ぼう」をテーマに、大学教授をはじめ小・中学校の先生方や専門家を講師としてお招きし、小学生が理科に関する興味関心を高めるため、実験を中心とした体験的な学習を実施している。
- (2) 中3入試対策教室
- 市内の中学生がより参加しやすいように、会場を2か所に分けて実施している。
 - 基礎的な学習に取り組む講座に加え、難易度の高い問題に取り組む講座（数学スペシャル）を新設した。
 - 講師は、市内全中学校から校長を通じて推薦していただいている。身近な教員に指導を受けることができるなど、生徒が参加しやすい環境に配慮している。

取組内容

- (1) おもしろ理科実験教室
- 「光の不思議」、「紙コップでUFOをとばそう」、「あるく恐竜づくり」など児童の興味が高まるようなテーマを講師が設定し、年間24講座を計画・実施している。
 - 1講座定員30人とし、申込みを受付している。1年間を4期に分けて募集要項を作成し、学校を通じて児童へ配布している。毎回40人を超える申込みがあるため、講座によって抽選で参加者を決定している。
 - 写真の講座は6月5日（日）に実施した講座で、実験を通してなぜペットボトルの中の魚が浮き沈みするのかを勉強した。
- (2) 中3入試対策教室
- 秋と冬の週末、中3受験生を対象に補習教室として実施している。
 - 秋季対策講座は、数学・英語2教科で基礎的な学習を2会場で2回ずつ実施。また、数学のやや難易度の高い問題にチャレンジする数学スペシャルを1会場で2回実施した。
 - 冬季対策講座は、国語・数学・英語・理科の4教科を2会場で3回ずつ開催した。
 - 使用教材は、コーディネーターを中心に市内の中学校へ呼びかけ、過去の入試問題を中心に作成している。



【水の中で浮き沈みする魚の不思議】



【冬季入試対策講座（数学）】

成果

- (1) おもしろ理科実験教室
- 参加児童からは、「袋ナットと釘とじしゃくで方位磁針ができたのでびっくりしました（理科実験教室）」、「海の生き物クイズやお話がおもしろかったです。海の生き物の本当の大きさが分かりました。（ドリーム教室）」などの感想が寄せられ、この事業の目的である学習への興味関心を高めている様子が分かる。
- また、一人で50講座以上も参加するリピーターがいるなど、事業は成果を挙げている。
- (2) 中3入試対策教室
- 来年度以降は本事業を拡大し、より多くの生徒の参加ができるよう、講座内容の見直しと会場選定を行っていく。

(土曜日の教育支援)

市町村名	坂戸市		
実施教室数	9 教室	対象学校数	12 校
コーディネーター数	10 人	平均年間開催日数	20 日

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	学力のびのび塾		
登録児童生徒数	103 人	登録スタッフ数	49 人

ポイント

- (1) 各教室のリーダー（コーディネーター）を対象としたリーダー会議を開催し、情報交換を行っている。ゲーム形式で親しみやすい学習等の各教室で工夫している点を共有している。
- (2) 教室は地域の公民館を使用し、小学校の土曜日授業等を考慮した上で日程を設定した。
- (3) 毎月2回程度の開催であるが、土曜日授業等の都合で不定期のため、事前に保護者宛てに「今週末はのびのび塾があります」といったメール配信を行った。

取組内容

対象 小学4年生及び5年生の一部
期間 平成28年5月から平成29年2月の土曜日、
各教室全20回

学習内容及び目的

小学4年生が、3年生（5年生は、4年生まで）の国語・算数を学習し、分かる喜びを感じ、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげる。また、学習支援員には地域の人材を活用し、支援員にとっても地域への貢献・教える喜びを感じ、活力ある地域づくりの一助とする。



【学習の様子】

成果

- (1) 学習には共通のドリルを用意したが、併せて辞書を各教室に配置したことにより、児童が積極的に辞書を使い、分からない漢字を自分で調べるようになった。
- (2) 学習支援員のアンケートでは、「はじめは中々進まない児童もいたが、だんだん意欲的になってきた。とても良い状態になっているようだ。」といった感想があった。
- (3) 今年度から配置した統括コーディネーターは、社会教育指導員の経験を持つ元校長であることから、社会教育・学校教育双方の目線による学習支援を行うとともに、各教室リーダーとの連携を図ることができた。



【意欲的に学習に取り組む児童】



【支援員によるきめ細かな指導】

(土曜日の教育支援)

市町村名	ふじみ野市		
実施教室数	2 教室	対象学校数	6 校
コーディネーター数	6 人	平均年間開催日数	16 日

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	ふじみ野寺子屋中学校コース		
-----------	---------------	--	--

登録児童生徒数	22 人	登録スタッフ数	6 人
---------	------	---------	-----

ポイント

- 中学生コースは、夏休みに開催したふじみ野寺子屋（10日間）に続けて、9月以降も月1回、土曜日に学校や家庭以外の環境で学習する機会を提供する。
- 生徒が参加し易いように、会場を東地区と西地区の2会場に増やした。
- 教科を国語、算数、英語とし、中学校免許を有する講師を配置した。英語では、ALTによる英会話の学習も取り入れた。

取組内容

(1) 実施内容

- ・中学校免許を有する講師6人のうち、各会場2人ずつ配置し、国語、数学、英語の3教科について、学習支援を行った。
- ・参加した生徒の自主学習を基本とし、生徒からの質問を受けたり、講師が用意したプリントや県の学力調査の過去問題に取り組んだり、生徒の実態に合わせた学習支援を行った。
- ・英語については、市内小・中学校に勤務しているALTによる英会話の学習も行った。

(2) 生徒の募集について

- ・市内中学校6校に案内を配布し、参加者を募るとともに、保護者向けに説明会を行った。

成果

- 22人の生徒が申込みをし、自ら進んで学習する機会を設けることができた。
- 各会場に2人ずつ講師を配置したことで、よりきめ細やかな学習支援をすることができた。
- 学校や家庭以外に学習する場を提供することができ、下記のアンケートのとおり、保護者や生徒の満足度も高かった。

<アンケートより>

生徒

- ・たくさん質問することができてよかった。
- ・講師の方が詳しく丁寧に教えてくれた。
- ・集中して学習することができ、よい受験勉強ができた。

保護者

- ・家庭以外に学習できる環境があってよかった。
- ・寺子屋に参加することで規則正しい生活になった。
- ・学校が休みの日に学習する場があると、意欲的に学習する子が増えると思う。



【ALTによる英会話の学習】



【一人一人に個別指導】

(土曜日の教育支援)

市町村名	ときがわ町		
実施教室数	1 教室	対象学校数	5 校
コーディネーター数	1 人	平均年間開催日数	20 日

【活動事例の紹介】

取組名 (教室名)	かわせみ合唱団		
登録児童生徒数	15 人	登録スタッフ数	4 人

ポイント

- 現役の町内小学校教諭に協力していただくことで、子供たちは専門的な指導を受けることができている。
- 募集のチラシを作成し、積極的に募集を呼びかけているほか、児童や生徒、その保護者の口コミによる参加も多い。

取組内容

- (1) 公民館での練習
 - ・ 活動は都幾川公民館を利用し、年に13回行っている。
 - ・ 練習は、講師である現役の町内小学校教諭が専門的見地から作成したプログラムによって行われている。
- (2) 町の文化祭での発表
 - ・ 練習の成果を「ときがわ町文化祭」で発表している。
 - ・ 今年度は、11月5日(土)にときがわ町文化センター大ホールにて行われ、「旅立ちの日」と「変わらないもの」の2曲を披露した。

成果

- 中学生になっても活動に参加したい生徒がいる。
- 合唱団は、児童・保護者からの要望をきっかけに立ち上げられたもので、いわゆる学習やスポーツでない分野における多様なニーズの一端を汲み取ることができたと考えている。
- 教える側(コーディネーターや教育活動推進員)にも学校現場とは違った“やりがい”を感じてもらえた。
- 経費をほとんど必要としなかった。

【募集のチラシ】



【町の文化祭で発表】



【練習風景】

市町村名	熊谷市		
実施教室数	16 教室	対象学校数	16 校
コーディネーター数	16 人	学習支援員登録数	51 人
平均年間開催日数	30 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	学習支援充実くまなびスクール		
----------	----------------	--	--

登録生徒数	609 人	登録スタッフ数	67 人
-------	-------	---------	------

ポイント

- 会場は各中学校とし、実施日については各中学校が設定した。このことにより、学校の実情に応じた運営ができた。
- 学習支援員を対象とした研修を年間3回実施し、それぞれの指導力向上を図った。
- 「くまなびカルテ」を作成し、学習支援員が生徒一人一人の課題を的確に把握することにより、個別の支援がより充実できた。
- 市内の全生徒に配布してある「熊谷市学力向上テキスト」（熊谷市教育委員会作成）を各学習支援員に配布し、テキストとして活用した。

取組内容

(1) 事業内容

教員OBや教員免許状所有者、学生等の有償ボランティアによる、生徒一人一人に対するきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った。対象は市内全ての中学生で、市内の中学校（16校）が年間30回以内で週1回程度（1回2時間）実施した。実施時期は平成28年6月から平成29年3月とし、夏季休業中に設定することも可とした。学習形態は国語、数学、英語を中心とした自学自習形式で、一部講義形式も取り入れた。



【くまなびスクールの様子（妻沼西中）】

(2) 情報共有の推進

○ 学習支援員研修会の実施

学校の課題とその対応策、工夫した取組の紹介等、情報共有を行った。元校長の学習支援員を講師とした個別の指導方法等の講義は好評で、指導力の向上に繋がった。

○ コーディネーター研修会の実施

各校の現状と課題、取組の成果、来年度の計画を策定する上での情報交換等を行った。また、学習支援員研修会における話題等も伝達し、各校の運営に生かした。

(3) 学習支援員等の人材確保

○ 市報による募集

○ 大学等への協力依頼

○ 各校に配置している学力向上補助員の活用

学力向上補助員は、日ごろから生徒と関係があることから、学校・支援員の双方にとって有効であった。今後は、コーディネーターを中心に、地域の人材を発掘・活用していきたい。



【真剣に学習する生徒たち】

成 果

- 経済的な理由等の要件を設けずに、市内全ての中学生を対象とし、学習の機会を保障し、個に応じたきめ細かな指導を行うことで、中学生全体の学力の向上に繋がった。
- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果において、土曜や日曜など学校が休みの日に2時間以上勉強する生徒の割合が多くなり、家庭学習の習慣が着実に定着してきた。
- 熊谷市議会においてこの取組が取り上げられ、大変好評であった。
- 学校に登校できない生徒がこのスクールに参加し、登校へのきっかけとなった。

(中学生学力アップ教室)

市町村名	川口市		
実施教室数	23 教室	対象学校数	23 校
コーディネーター数	1 人	学習支援員登録数	53 人
平均年間開催日数	13 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	川口市中学生学力アップ教室		
----------	---------------	--	--

登録生徒数	565 人	登録スタッフ数	53 人
-------	-------	---------	------

ポイント

- 対象を「基礎学力の不足により進学に不安をもつ中学3年生」として、国語・数学・英語の3教科で実施した。
- テキストは、指導課で埼玉県公立高校入試問題の出題傾向を分析し、基礎的・基本的な内容を中心に作成し、各学校の生徒の実態に合わせて柔軟な対応が可能となるように作成した。
- 学習支援員は、経験豊富な退職教員や教員を目指す大学生（教育実習生のほか、7つの大学に協力を依頼）を対象に、広く募集し、指導課が面接・選考の上、配置を行った。
- 学習支援員説明会を実施し、諸手続きや概要説明に加えて、心構え等についても共通理解を図った。また、学校ごとに管理職と学習支援員とで打合せを行った上で、学力アップ教室を開始した。
- 各学校の実施に当たっては、市教育委員会の指導主事が視察し、運営上の課題を把握するとともに、各学校との調整を行った。

取組内容

- (1) 実施日時と回数
 - ・ 10月初旬から2月下旬
 - 土曜日もしくは日曜日、冬季休業中等
 - 各校で13回
 - ・ 時間は、9:30～11:30、又は、13:00～15:00の2時間
- (2) 内容
 - ・ 埼玉県公立高校入試対策（国語・数学・英語）の基本問題レベル
 - ・ 指導課で作成した国・数・英のテキストを使用。各自で取り組みたいテキストや参考書等の持ち込みも可。
- (3) 指導者
 - ・ 学習支援員（退職教員及び教員を目指す大学生） 各校原則3人



【生徒の質問に熱心に対応する支援員】

成果

- 各校での実施だったので、生徒は参加しやすかった。
- 各教科のテキストは入試問題を基に作られており、生徒の取り組む意欲が増大した。
- 保護者や学校関係者からは、以下のような声が聞かれた。
 - ・ 「計算問題が確実に解けるようになり、本人も自信がついたようだ。他教科の学習に対しても意欲的になり、本当に感謝している。」（参加者の保護者）
 - ・ 「生徒指導上、学習支援員だけに任せるのは不安だったので一緒に指導したが、もともと計算ができていた生徒はより確実に、できていなかった生徒はできるようになっていった。その変化を実感することができた。良い取組だった。」（活動に参加した教員）
 - ・ 「参加生徒とその保護者、3学年教員それぞれから『よかった』という声を聞いた。2学年教員も来年度の実施に向けて前向きに考えているので、来年度も是非お願いしたい。」（学校関係者）

市町村名	加須市		
実施教室数	5 教室	対象学校数	8 校
コーディネーター数	4 人	学習支援員登録数	18 人
平均年間開催日数	35 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	加須まなび Time		
----------	------------	--	--

登録生徒数	116 人	登録スタッフ数	22 人
-------	-------	---------	------

ポイント

- 各学力・学習状況調査の結果を見ると、「学力の達成率に個人差が大きい」ことや「家庭学習の時間が十分でない」ことが分かった。そこで、「ベーシック（基礎・基本）コース」と「アドバンス（発展）コース」を開設し、生徒の基礎学力の定着と発展的・応用的な学力の向上が図れるよう工夫した。
- 5つの会場で実施することで、市内公立中学校に通う全ての生徒が参加しやすいよう配慮した。
- 9月に追加募集を行い、学力向上を望む生徒・保護者のニーズに応えた。

取組内容

(1) 実施内容

- ア 対象…市内公立中学生に通う生徒（希望者）
- イ 指導者…コーディネーター（退職校長及び退職教員）
学習サポーター（教職員志望の大学生等）
- ウ 学習内容…国語、数学の2教科を中心に、各生徒の課題に沿った学習を行う。
- エ 学習時間…週1日、2時間（土曜及び日曜の9:45～11:45、13:30～15:30）

(2) 事前準備

- 前年度から複数の大学に依頼して学習サポーターを募集していたが、なかなか集まらなかった。そこで、市内の小・中学校で教育実習を行っている学生に声をかけたところ、予定を上回る人数が集まった。
- 会場については、公民館やコミュニティセンターを活用することで、学校に負担がかからないように配慮した。
- 教材については、市教委で漢字・計算ドリルや入試の過去問などを準備した。（実際には、生徒が各自で持参した問題集等を使う頻度が高い。）

成 果

○ 生徒の声

- 「自分から勉強する時間を作るのが苦手なので参加しました。分からないところがあると、先生がすぐ教えてくれるので、すごく助かりました。」「学校以外でも勉強がしたかったので参加しました。時間が過ぎるのが早く感じられて、もっと時間がほしいと思いました。」
- 1・2年生の参加者が多く、塾に通っていない生徒の学習の場として定着しつつある。また、塾に通っている生徒にとっても、個別にきめ細やかな指導を受けられることが魅力となっている。



【個別に分かるまで指導】



【一人よりみんなで】

(中学生学力アップ教室)

市町村名	深谷市		
実施教室数	10 教室	対象学校数	10 校
コーディネーター数	1 人	学習支援員登録数	10 人
平均年間開催日数	90 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	中学生補習学習「ステップアップレッスン」		
----------	----------------------	--	--

登録生徒数	179 人	登録スタッフ数	18 人
-------	-------	---------	------

ポイント

- 全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査の結果や標準学力検査等の分析を踏まえ、生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行っている。
- 中学校3年生では、数学・英語の基礎的な内容から過去の入試問題まで、幅広い内容を扱っている。
- 教科書や授業で使用しているワーク等の解説をしたり、授業で理解しきれなかった内容等について一人一人の疑問に答えたりして、個々の生徒の学習支援をしている。

取組内容

- 学習に対して不安を抱えている生徒を対象に、基礎的・基本的な学力や学習習慣を身に付けることを中心とした補習学習（ステップアップレッスン）を年間で95回実施している（土曜日実施18回を含む）。
- 中学校学習支援員（元教員）が核となり、地域の大学に通う学生ボランティアを活用して実施している。
- ボランティア講師の大学生は、過去に参加していた先輩などから事前にアドバイスをもらうなど、事業内容を十分理解して申込みをするケースが増えてきた。継続的な取組により、打合せがスムーズになり、効率よく実施できるようになってきた。



【大学生による指導】

成果

(1) 生徒の感想

- 周りの友達が塾に行っていると聞くと少し不安になりました。補習学習に参加して、授業の復習や分からないところなどを聞いて本当によかったです。
- 講師の先生たちが優しく教えてくださるので補習が終わった時には少し勉強が分かるようになった気がします。勉強は好きではないけど、テストの点数が少しだけ上がってうれしかったです。

(2) 保護者の感想

- 家にいてもなかなか勉強をしないので、放課後や休日に学習する場所を提供していただけることは、小さい子がいる我が家にとっては大変ありがたいです。

(3) ボランティアに参加した学生の感想

- 自分が教えた中学生が「分かった。」と言ってくれた時は本当にうれしくなります。
- 中学生と一緒に勉強する中で、教員という仕事の難しさとやりがいを見出すことができ貴重な時間を過ごしています。



【質問に答える講師】

市町村名	北本市		
実施教室数	6 教室	対象学校数	4 校
コーディネーター数	2 人	学習支援員登録数	70 人
平均年間開催日数	35 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	北本市営ナイトスクール		
登録生徒数	257 人	登録スタッフ数	72 人

ポイント

(1) 実施形態

個別指導を原則としており、生徒から質問が出たり、手の止まっている生徒に講師が声をかけたりして、一人一人の理解度に合わせて課題解決を図っている。

参加生徒を2グループに分け、数学と英語を前後半で入れ替え、英語と数学を担当するそれぞれの講師が個別指導しやすくしている。

(2) 会場選定

土曜日の夕方に公民館を会場として行う3年生のナイトスクールは、市内4校の中学校を2グループに分け2会場で実施している。

1・2年生は水曜日（部活動のない日）の放課後に学校を会場として、各中学校で実施している。学校実施では、教員の講師の割合が増え、生徒の実態を把握し、積極的に声をかけ充実した学習活動が展開できる。

(3) 教材準備

市教委にて、問題集を作成し、ナイトスクール開始前に参加生徒及び講師の分を準備する。冊子にしたテキストを年度初めに配布し、予習や復習に活用できるようにした。



【作成したテキスト】

取組内容

(1) 中学生の学ぶ機会の確保

学校を離れ、他校の生徒と同じ空間で、外部講師とともに日頃とは異なる環境の中、自分のペースで意欲的に取り組み、課題の解決を図っている。中学生全ての「学びたい！わかりたい！」という意欲をサポートする。

(2) 学びやすい環境づくり

参加は希望申込み制とし、会場は、参加しやすいように学校や公民館を活用し、放課後や土曜日の夕方に実施している。

(3) 既習事項を中心とする学習内容

全学年を対象に、数学・英語について、それぞれの学年の既習事項を学習する。3年生の実施回数が多いが、1・2年生についても実施し、早期からの学習のつまずきの解決を図っている。

成 果

(1) 生徒の感想

「受験に向けて、忘れてしまった部分を復習したいと思って参加しています。過去の問題を内容も個別で見てくれるので本当に助かります。」

「3年生の今、わからない問題を解くためには、『1・2年生で習った内容をこのように使えば解けるよ！』と教えていただき理解ができました。」

(2) 成果として

生徒一人一人の理解度に合った個別指導をする機会となり、個々の学習意欲に応えることができた。講師に教職員や大学生、地域の方々の協力を得ることにより、よりきめ細かな指導が可能となり、生徒の疑問や課題解決を図ることができた。



【土曜日のナイトスクール】

(中学生学力アップ教室)

市町村名	越生町		
実施教室数	1 教室	対象学校数	1 校
コーディネーター数	1 人	学習支援員登録数	3 人
平均年間開催日数	7 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	越生中学校学力アップ教室		
----------	--------------	--	--

登録生徒数	300 人	登録スタッフ数	3 人
-------	-------	---------	-----

ポイント

- 町費の臨時講師が、中学校の活動内容に沿って指導を行うことで、スムーズに事業を行うことができた。
- 専門教科の異なる臨時講師が指導に当たることによって、基礎学力が不足している生徒を重点的に支援するとともに、応用力を伸ばしたい生徒にも対応することができた。
- 学校の教員と講師の協議の場を設け、各学年・教科ごとの状況や個別対応が必要な生徒についての意見交換を行うなど、積極的な情報共有を行い、実施内容に反映した。



【補充学習の様子】

取組内容

- 長期休業中を中心に補充学習を実施するとともに、適宜、確認テストを行うことで生徒の状況を把握し、きめ細やかな学習支援を行うことができた。
- 補充学習に使用する教材は、教科書を中心に臨時講師が作成したプリントなどを使用。
- 基礎学力が不足している生徒に学校の教員が声がけを行ったほか、応用力を伸ばしたい生徒も参加できるようにした結果、夏休み補充学習では延べ114人の生徒が参加した。

成果

- 学習支援員の様々な取組を通じて、生徒との信頼関係が増し、通常の授業や学校生活においても良好な関係を築いている。
- 教員と講師で情報共有を行うなど、丁寧に生徒一人一人の状況を把握することで、きめ細かな指導を行うことができ、確認テストでは顕著な伸びを示した生徒もいた。
- 学習を担当した講師からは、「事前に学年や教科担当と協議をしていたので、基礎学力が不足している生徒に適切な指導ができた」、「生徒の学習意欲を高めることができ、9月からの授業にも成果が見られた」などの声が寄せられた。



【確認テストに取り組む生徒】



【きめ細やかな指導】

市町村名	小鹿野町		
実施教室数	1 教室	対象学校数	1 校
コーディネーター数	1 人	学習支援員登録数	12 人
平均年間開催日数	21 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	中学生土曜未来塾		
登録生徒数	85 人	登録スタッフ数	23 人

ポイント

- 学校・家庭・地域の連携で教育スクラム日本一を目指し、地元高校教員・民間塾講師・教員OBの方に講師をお願いした。
- 講師は、町の広報誌と一緒に町内へチラシを配布して募集を行い、教育長と担当者と面接を行った上で決定している。
- 中学校では、生徒が参加しやすいよう、未来塾が開かれる土曜日の午前中は、部活動を行わないなど参加しやすい環境づくりを行っている。
- 遠方の生徒も気軽に参加できるように、スクールバスを運行している。
- 参加者アンケートや講師との打合せを踏まえ、習熟度別クラスを編成し、講座を行っている。

取組内容

- 講座は、学校の授業進度に合わせて、補習的な学習を中心に行っている。
- さらに先に進みたい生徒に対しては、民間塾の講師を中心に自分のノウハウにより、より高度な講座を行っている。
- 習熟度別クラスの編成は、中学校の先生に学校での状況をもとにアドバイスをもらうなど、学校と連携しながら決めている。
- 参加生徒は、「苦手教科を克服したい」、「学力を高めたい」など意欲的に取り組んでおり、参加者アンケートでも、多くの生徒が講座内容について分かりやすいと答えている。

成 果

- 生徒の実態を把握しつつ、年度途中から習熟度別学級を実施し、学習の躓きの克服につなげている。
- 基礎学力向上のためのきめ細かな指導に加え、学び方や生き方についてのアドバイスも熱心に行っている。
- 回数をもっと増やして欲しいという意見があり、来年度以降検討していく。
- 普段の先生と違う雰囲気の中で勉強でき、楽しく勉強できるようになったという参加者の声があった。
- 講師にとっては、地域の子供の育成に関わる楽しみができた。
- 分かりやすく教えるための工夫を講師自身が勉強するようになった。（スキルアップ）



【習熟度別クラスによる講座】



【民間塾の講師などによる指導】

(中学生学力アップ教室)

市町村名	上里町		
実施教室数	1 教室	対象学校数	2 校
コーディネーター数	1 人	学習支援員登録数	8 人
平均年間開催日数	65 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	上里町中学生学力アップ教室		
登録生徒数	27 人	登録スタッフ数	9 人

ポイント

- 教室開始日を、生徒（中学3年生）が参加しやすいよう、運動部活動が終了した7月下旬に設定した。
- 開催場所を、町の中央に位置する中央公民館にして、生徒が通いやすくした。
- 事前に参加する保護者のメールアドレスを登録し、緊急時の連絡として活用した。
- 毎回教室を開催する前に打合会を実施し、指導方法の確認等を行った。
- 主体的・能動的に学習できる場を作るために、学習支援員は次のような取組を行った。
 - (1) 質問をされても直ぐに答えを教えず、適切なヒントを与え、生徒が自ら答えを導き出せるような言葉がけをした。
 - (2) 生徒の隣に学習支援員が座れるように椅子を配置し、そこに学習支援員が座り、生徒と同じ目線で様子を伺いながら、生徒の質問に答えていった。
 - (3) 生徒同士の学び合いなど大きな声で話してしまうと、周りの生徒が集中しにくくなってしまふことから、声の大きさは、その相手だけに聞こえる声で話すよう指導した。
 - (4) 支援時は褒めるなど、生徒の頑張りを認めるよう心がけた。

取組内容

- (1) 対象生徒（定員40人）
 - ①上里町立中学校に在学する中学3年生
 - ②学習塾に通っていない生徒
 - ③意欲はあるが、学習に不安を感じている生徒
- (2) 開催日
平成28年7月21日から平成29年2月28日の週2日間
(原則月曜日・木曜日)
- (3) 開催内容
町内には中学校が2校あることから、中学校ごとに2つのクラスに分けた。教科は、国語・数学・英語で、決められた時間割に従って教室を開催した。生徒は、学習する教科の教材を持参し、学校の宿題及び学校での学習に関する予習や復習を行い、分からないところは、学習支援員に質問していく。
- (4) 事前準備
年度当初、学習支援員となる人材を探すため、近隣の大学と連携をとったが、必要とする人数に達しなかった。そこで6月・10月に町内小中学校で教育実習を行った大学生や、町内小中学校でボランティアとして活動していた大学生、本年度の教員養成セミナー受講生に声をかけた。
教材や辞典については、生徒が持参する決まりである。教材や辞典の準備ができていない生徒に対応するため、「学校で使用されている中学1年生から3年生までの教科書や資料」「国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典」をそれぞれ1セット購入し、毎回すぐに使えるようにした。



【集中して取り組む生徒たち】

成果

- 保護者アンケートからは「勉強意識が高まった。」「本人の学習の理解度が深まり、時間が足りないと感じるなど、意欲が出てきたことに嬉しく思う。」「個々のペースでそれぞれの課題に取り組めるので良かった。」「学校の先生が時折顔を出してくれるのも、本人にとって心強かった。」「無料で子供たちを見ていただき大変有り難かった。」などの感想が寄せられた。
- 学校関係者からは、「家庭学習を定着させるきっかけとなった。」「学習機会が多く与えられ生徒たちの勉強に対する意識が高まった。」「学力がさらに向上した。」などの感想があった。

市町村名	寄居町		
実施教室数	1 教室	対象学校数	3 校
コーディネーター数	1 人	学習支援員登録数	18 人
平均年間開催日数	28 日		

【活動事例の紹介】

取組名（教室名）	より・E土曜塾		
登録生徒数	70 人	登録スタッフ数	2 人

ポイント

- より多くの生徒が参加することができるよう、開始時期を8月下旬とした。
- 土曜日を基本に、週1回数学と英語の授業を実施した。年間28回実施するが、業者委託にすることによって、授業の合間、家庭においても業者のWEBサイトから学習を行うことができるようにした。
- 面談、保護者会等を実施し、勉強方法を身に付けることができるようにした。

取組内容

(1) 実施内容

株式会社トライグループに業務を委託して、8月の最終土曜日から2月まで、原則週1回、年間28回数学と英語の授業を実施した。会場は、3校の生徒が集まりやすいよう寄居町役場内の会議室を利用して行った。授業は、数学も英語も60分で、習熟度別の少人数グループ（3～5人）に講師1人を配置し、個別指導が行われるようにした。費用については、テキスト代2,500円のみを個人負担として、あとは全て公費とした。

第1回で事前テストを実施し、その結果をもとに習熟度別のグループを作った。そして、11月、1月にもテストを実施し、学力の伸びを実感できるようにした。

事業の開始時、11月に面談を実施し、学習上の悩みの相談にのったり、学習方法のアドバイスを行ったりした。

また、12月には保護者会を実施し、学力向上を図る上で重要となる家庭の協力について説明を行った。

(2) 事前準備

6月に業者選定については、プロポーザル方式により、事業展開の方法等について仕様書に基づいて業者に説明をしてもらった。町の委員によって契約業者を選定した。

6月から業者との打合せによって、細かい事業内容を詰めていった。7月に業者と契約を結び、生徒募集を行った。

(3) 当日の様子

当日の様子は、習熟度別のグループにより、実態にあった授業が展開されているので、分かる、できるようになったという声が聞かれた。

回を重ねるごとに講師と生徒との人間関係もでき、生徒が気軽に質問をし、自分の苦手な部分を克服している姿が見られるようになった。



【授業風景】

成 果

- 8月の事前テスト、11月の中間テスト、1月のまとめのテストで学力の伸びを確認することができた。
- 業者と常に連絡を取り合うことによって、事業運営をスムーズに進めることができた。
- 学校との連携によって、生徒の学習状況を共有することができた。
- 保護者会を実施することによって、学力向上に向けた家庭の在り方について理解を図ることができた。

第6「放課後子供教室推進事業」 の成果と課題



「放課後子供教室推進事業」の成果と課題

1 成果

放課後子供教室推進事業の取組により、実施市町から以下のとおり成果が報告されている。

(1) 子供たちに関する成果

- 異学年の子供や地域の大人など、子供たちが接する人が増え、人間関係の幅が広がった。
- 人との触れ合いの時間の大切さを感じる場となった。
- 夢中になって遊ぶ中で、様々な体験や経験を重ね、知識や技能が身に付いていた。
- 学校では体験できない雰囲気を楽しみを感じながら、積極的にのびのびと活動しており、子供たちの成長した姿が見受けられた。
- 地域とのつながりが深くなり、学校、地域で挨拶ができるようになった。

<子供たちの声>

「近所に一緒に遊べる友達がいないので、学校で友達と活動できてよかった」
「スポーツや工作が楽しかった」「外あそびが好きになった」
「みんながいるから学習もやる気になる」
「分からないところがあると、先生がすぐに教えてくれるので、すごく助かった」
「学校ではできない遊びができるので、毎回楽しみにしている」

(2) 保護者に関する成果

- 体験を通して、身近な材料を使ってモノを作るなど遊びの発想が豊かになった。
- 地域の方々と触れ合いながら活動できる場はなかなか無いので、人間性や社会性を広げる良い機会になった。
- 違う学年の子供を持つ保護者同士が、交流できる貴重な場となった。
- 保護者がスタッフに相談をしたり、学校外でも挨拶をしたりするなど、地域内のコミュニケーションが高まった。

<保護者の声>

「子供が一人で留守番をしている時間が短くなり、ありがたい」
「子供たちが安全で楽しく居られる場所で助かっている」
「宿題や家庭学習を行う際の集中力が身に付いた」
「家庭ではなかなか教えられないことを体験できる」
「教室の様子を家で楽しそうに話してくれるため、親子の会話が増えた」
「夏休みに教室に参加することで、規則正しい生活をする事ができた」

(3) 指導者や地域に関する成果

- 地域の子供たちの健やかな成長の一翼を担っているという実感がわき、やりがいを感じている。
- 様々な団体に関わることで大人同士の交流が生まれ、地域のコミュニティづくりにつながっている。
- 「地域の子供は地域が育てる」という意識が高まり、地域の教育力の向上が図られている。

<指導者や地域の方の声>

- 「子供たちから街で挨拶をされるようになり、嬉しい」
- 「大人同士も知り合いが増えて楽しい」
- 「子供たちの成長と笑顔に元気をもらっている」
- 「自分の趣味や能力を発揮できる場があり、ありがたい」

放課後子供教室推進事業に参加された多くの地域の方々がやりがいを感じるとともに、地域の教育力の向上につながっている。また、異年齢集団の活動により、子供に思いやりの気持ちや自主性が身に付いている。

2 課題

放課後子供教室推進事業を実施した市町から、以下の課題が報告されている。

- (1) コーディネーター等の人材の確保及び育成
- (2) 活動内容の充実
 - ・高学年の児童も多く参加できるような企画・運営
 - ・「学校応援団」や「放課後児童クラブ」との連携
 - ・開催日数や活動場所の確保 など
- (3) 広報活動の充実

これらの課題に対応する取組として、まず、コーディネーター等の人材の確保及び育成については、県が「コーディネーター研修」等を実施し、活動の中核を担う人材確保への支援及び育成を図る。

また、活動内容の充実については、市町村の担当者会議や地区別実践発表会の開催、実践事例集の配布を通じた優れた活動事例の情報提供や、補助金の交付による財政支援などにより、市町村の取組を支援していく。

最後に、広報活動の充実については、県教委だよりや、県教育委員会メールマガジンなどの様々な広報媒体を活用し、市町村における取組内容を周知する。

今後とも、子供たちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、市町村や関係部局と連携を図りながら放課後子供教室等の推進に努めていく。

第7 地域の教育力を生かした 学習支援の取組の推進の ための研究委嘱について



「地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進」のための 研究委嘱について

平成26・27年度の2年間にわたる「地域人材を活用した特色ある『学校応援団』活動の推進のための研究」により、地域人材の活用や特色ある「学校応援団」活動の内容充実に向けた方策等について、一定の成果を得ることができた。このことを踏まえ、平成28年度からは、各学校における学習支援の取組を推進すべく、地域の教育力に焦点をあてた研究を進めている。今年度は、桶川市、入間市、本庄市、秩父市、久喜市の5市教育委員会に研究を委嘱した。

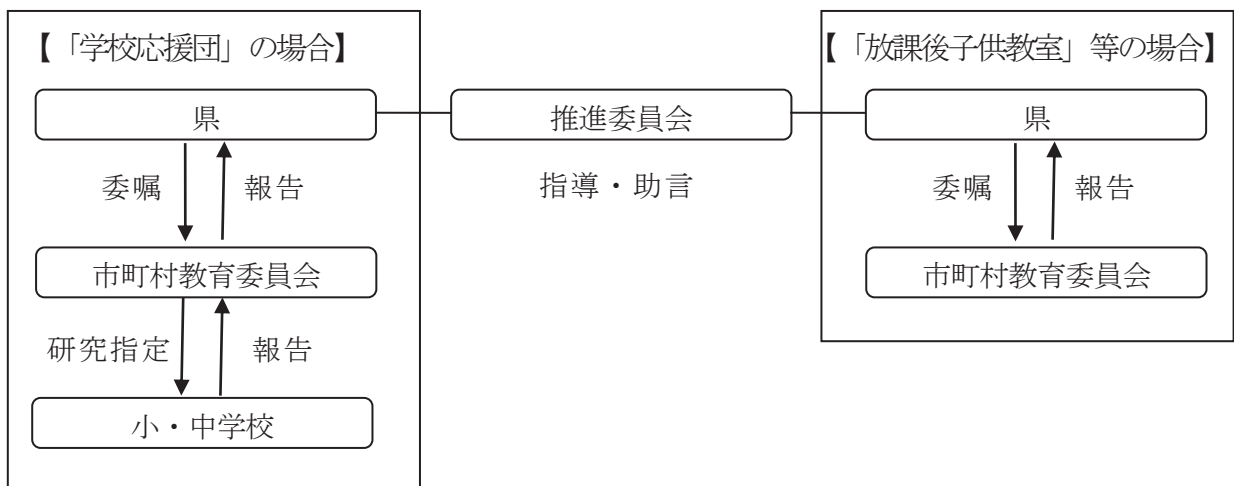
1 趣 旨

少子化・高齢化の進展、地域のつながりの希薄化、地域格差・経済格差の進行等により、子供を取り巻く環境が大きく変化している現在、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域の拠点として学校が積極的に家庭や地域に働きかけることによって、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進することが求められている。そこで、学校・家庭・地域が連携した取組を進める方策や運用上の課題などについて、実践を通して調査・研究するため、県内の市町村教育委員会に研究を委嘱する。

2 平成28年度研究テーマ

地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進

3 事業の実施体制



4 研究内容

市町村教育委員会（学校）は、「2 平成28年度研究テーマ」に基づいた独自の研究テーマを設定し、次の〈研究内容例〉を参考に実践研究を進めることとする。

なお、研究の対象としては、「学校応援団」「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」のいずれかの事業とし、研究の推進にあたっては、市町村教育委員会、学校、地域住民などが相互に意見・情報交換を行う場を積極的に設けるなど、地

域と協働した取組を進められるよう留意することとする。

〈研究内容例〉

- ◇ 地域の教育力を生かした学力向上の取組
- ◇ 地域人材の知識・技術を生かした学習意欲の向上につながる取組
- ◇ 地域の大学や企業等の教育資源を活用した学習活動充実の取組
- ◇ 学校と地域が連携した教育活動計画の立案・実施等の取組

5 委嘱期間

本事業の委嘱期間は、委嘱を受けた日から平成29年2月末日までとする。

6 委嘱手続

- (1) 委嘱を受けようとする市町村教育委員会は、別添様式による事業計画書を県に提出するものとする。
- (2) 県は、(1)により提出された事業計画書の内容を検討し、本事業の趣旨を踏まえた適切な計画であると認めた場合、市町村教育委員会に対して研究を委嘱する。

7 報告等

委嘱を受けた市町村教育委員会・学校は、次のとおり研究内容等について報告・発表するものとする。

- (1) 学校・家庭・地域連携推進委員会(年2回)に委員として出席し、研究計画の報告(第1回)、研究結果報告(第2回)を行う。(市町村教育委員会代表者1名)
- (2) 研究指定校における研究の実践及び学校・家庭・地域連携実践発表会における発表内容等については、市町村教育委員会の指導助言により進める。
- (3) 研究委嘱市町村教育委員会(学校)は、研究内容に関して視察を受ける。
- (4) 学校・家庭・地域連携実践発表会で研究内容を発表する。
- (5) 年度末に発刊する実践事例集に掲載する「実践事例」をまとめ、提出する。
- (6) 「実績報告書」を県に提出する。(「実績報告書」は、(5)の「実践事例」の提出をもって替えることとする。)

第8 地域の教育力を生かした 学習支援の取組の推進の ための研究実践事例



桶川市 研究指定校：桶川市立川田谷小学校

研究テーマ 地域の人材を生かした学習意欲の向上につながる取組

1 研究のねらい

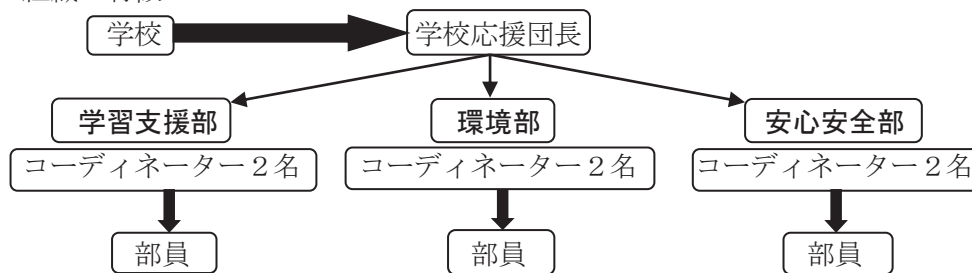
学校行事や授業等において、児童の学習意欲を向上させるために、学校応援団の地域人材を活用した「学習支援」の取組について研究・実践する。また、地域の特性・伝統を生かした特色ある学習内容を学校と学校応援団とで研究を推進する。

2 学校応援団の概要

(1) 組織

- ・本校では、52名の方々が学校応援団として登録されている。それぞれの方々は「学習支援部」「環境部」「安心安全部」（重複可）に所属し、コーディネーターからの依頼を受けて、各活動に参加している。
- ・活動への参加は無償ボランティアであり、「できる人が」「できるときに」「できることを」が基本である。

(2) 組織の特徴



- ・学校から、学校応援団長という全体を統括する方をお願いしたい内容を伝え、団長から、各部のコーディネーター2名に連絡し、コーディネーターから各部員に連絡するという流れになっている。この組織が本校の学校応援団の特色の1つである。
- ・「学校応援団コーディネーター会議」を開催する際は、学校と団長・コーディネーター6名とで行う。

3 研究内容

(1) 「学習支援部」の取組

ア 夏休み学習教室「きらきら教室」

本校では児童の基礎学力の定着と学力向上を目指して、夏休み学習教室「きらきら教室」を開催している。この取組に対して、学校応援団の方々が児童の学習を支援している。（実施期間：1学期終業式の翌日から7月末日までの夏季休業中）また、今年度から学区内にある公立高校との交流の一環として、指導補助として高校生が参加している。



イ 昔のくらし学習

3年生の総合的な学習の時間として、学校応援団の方々をお招きし、昔のくらしの様子について学習している。

今年度は、昔の学校、服装、遊び、道具、食べ物、戦争に関する六つのブースに分かれて、ゲストティーチャーの



話を聞いたり、資料を見たり、体験したり、質問に答えてもらうなどして、理解を深めた。

ウ 万作踊り

学校応援団の方々を通して、地域に伝わる伝統芸能である「万作おどり」体験への協力を依頼し、3年生の学習としている。学区域内で、代々継承されているため、子供たちの中には「万作おどり」の経験者が少なくない。難しい「万作おどり」を短時間で習得する。

エ ベに花の学習

桶川市は、江戸時代には山形に次いで、べに花生産量第2位を誇っていた。江戸時代後期には、べに花によって栄えた宿場町であり、今もその歴史の足跡があちこちで見られる。

本校では、児童が総合的な学習の時間に、べに花に関する体験学習を実施している。学校ファームでのべに花栽培、製造業者を招いた「べに花饅頭づくり」など、歴史や文化の学習に取り組んでいる。

オ その他の学習

そのほかにも、家庭科でミシンを扱う授業や和楽器の学習など、学校で必要とするゲストティーチャーを紹介していただいたり、連絡を取っていただいたりしている。

(2) 地域人材の活用

- ・多くの方が高齢者であり、リタイアされた方も多く、学校に協力的である。
→学校の希望する日時に都合をつけていただける。
 - ・応援団の方には、造園業、農家、土木業、工務店経営、民生委員、主任自動委員、元校長、元教諭、元銀行員、など様々な職業の経験者がいる。
→専門的な知識と経験、具体的説明や実践により、理解が深まる。
 - ・経験豊富で、人脈もある。
→必要なゲストティーチャーを推薦、協力していただける。
- 学校から学校応援団の方に、学習のねらいや流れを説明し、十分に共通理解を得た上で、学校と団員の役割を明確にして活動する。
→入念な打合せや会議を持つことが重要である。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 学校応援団の方は、身近な存在であり、本校児童との交流を図る機会にもなっている。その結果、児童が地域の方々へ積極的に挨拶できるようになっている。

イ 児童が、ゲストティーチャーの話や実演等に興味・関心を持つことにより、学習意欲の向上が図られている。

(2) 課題

ア 「学校応援団」の方々の高齢化と、新規加入者の減少により、活動内容の制限や身体的負担が大きい。

イ 応援団の方の多くは、地域の名士、元区長等、保護者にとって親や祖父母に当たる方もおり、立場や年代の違いから学校応援団とPTAの活動の連携・協力が難しい。

入間市 研究指定校：入間市立東町中学校

研究テーマ 小中を連携させた学校応援団活動による学習意欲の向上に関する実践研究

1 研究のねらい

本校は入間市の東部に位置しており、都心からの通勤圏にある。来年度開校30年を迎える学校である。隣接する入間市立東町小学校とは、平成23年度の「生徒指導における小中一貫推進モデル事業」（埼玉県教育委員会委嘱）をスタートに小中一貫教育の研究を共に推進し、現在に至っている。

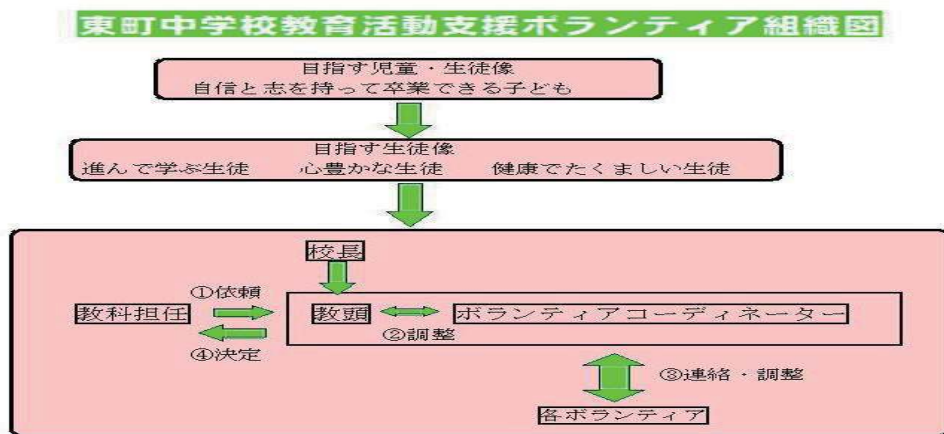
教育活動支援ボランティア（学校応援団）の組織は、この小中学校で「橋渡し」的な役割を果たしながら活動してきたことに特徴がある。コーディネーターが小中学校を兼ねており、小学校でボランティアを経験した方がそのまま中学校でも継続し、活動内容を発展させている。

本研究は、教育支援の中でも特に学習支援を中心に、学校・家庭・地域それぞれからの質・量ともに厚みのある教育支援を受けることにより、学習意欲の向上と、自ら将来地域に貢献しようとする態度の育成を目指している。



2 学校応援団の概要

(1) 学校応援団の組織



(2) 東町小学校学校応援団（あずっ子応援団）との関連

教科の支援

- 中 家庭科（調理実習、ミシン）
- 中 総合（盆点前）
- 小中 国語（書き初め、書写）
- 小中 英語

- 小 小学校のみ
- 中 中学校のみ
- 小中 同じ活動

教科外の支援

- 小中 図書
- 小中 おはおは（お話）
- 小中 花壇の花植え
- 中 サマースクール
- 中 P T A 合唱団
- 小 安全
- 小 給食配膳
- 小 随時（見守り、昔遊び）

小中合同の活動の支援

- 合同花植え
- 校外パトロール
- 万燈祭り餅つき（中学校のみ）



第3地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための実践事例

(3) 年間の計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
授業	博物館学習	ボランティア打合せ	2年家庭科調理	1～3年 英語 等 教科支援			ボランティア懇親会	1年家庭科ミシン			ボランティア感謝会	
									1年総合盆点前	国語書写		
授業外			図書館									
			1年 おはおは									
小中合同			花植え	サマースクール					花植え			
			合同花植え	パトロール			合同花植え	万燈祭り協力	パトロール			

3 研究内容

- (1) 学校とボランティアをつなぐ「ボランティアコーディネーター」
 - 小学校の学校応援団と兼務
 - ボランティア依頼のメール等の工夫
 - 計画的なボランティア活動の実施
- (2) ボランティア活動の、積極的な学校内外への広報・啓発
 - ボランティア室、ボランティア掲示板、名札、たよりの活用
 - 打合せ、懇親会、感謝会による交流
 - 口コミによる人材の輪の広がり

4 研究の成果と今後の課題

- (1) 成果 (「ア 学校」と「イ ボランティア」のそれぞれの立場から)

- ア ①厚みのある教育活動が展開できている
 - 入間市「狭山茶とふれあう教育」盆点前＝総合的な学習の時間はボランティアあってこそその授業
 - ②生徒と教師が飾らずに感謝の気持ちで生活できている
 - ボランティアが授業にいるのは当たり前、素直な気持ちで授業に向き合える
- イ ①生徒たちから元気もらえる
- ②学校に関わっている



第4地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための研究実践事例

- (2) 課題

- ア ①より効果的な学習支援の方法を探っていく
- ②教職員の、ボランティアが学校支援をしてくれるという意識を高める
- イ 次世代のコーディネーター人材の確保、ボランティア人材の拡充

本庄市 研究指定校：本庄市立旭小学校

研究テーマ よき校風・伝統を継承し、発展させる学校づくりと学習支援を推進する取組

1 研究のねらい

家庭や地域の教育力の低下、子供たちの生活における地域の大人や異年齢の仲間との交流、自然体験などの減少が指摘されてから久しい。また、21世紀はいわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。知識は豊かな体験活動をとおして生きて働く知恵となり、たくましく豊かな心を持つ人間をつくっていくものと考えられる。本校では、その考えに基づいて、米作りと収穫祭、マリーゴールドの種まきと移植、読み聞かせ、一人一実践、見守りとあいさつ運動など、たくさんの家庭や地域と五つの視点「自然」、「人」、「本」「家族」、「地域」とのふれあいを大切にした実践を積み重ねている。

そこで、研究テーマを「よき校風・伝統を継承し、発展させる学校づくりと学習支援を推進する取組」とした。本研究テーマのねらい及び重点は、以下のとおりである。

- 地域の自然や人材、施設を活用して、地域を知り、地域とのつながりを深め、地域を愛する心情や態度などの豊かな心を育成する。
- 家庭や地域と連携し、親子のふれあい、地域の方とのふれあいを深め、規律ある態度を育成する。
- 学校・家庭・地域の協力体制を深め、児童の活動をより活性化するとともに、より開かれた学校づくりを推進する。
- 体験活動がその場限り、そのとき限りの経験や感動に終わらず、確実に児童の生き方や考え方によりよく作用するように配慮する。
- それぞれの体験活動が他の体験活動や教科の学習内容と関連し、効果を上げるように工夫する。

2 学校応援団の概要

本校の学校応援団は、学校応援団コーディネーター会議の調整のもと、次の組織で構成されている。それぞれの組織が上記の五つの視点から児童を支えてくれている。

- 学習・遊び応援団～旭地区老人クラブ連合会・読み語り「あおぞら」～
- 安全応援団 ～旭地区自治会連合会～
- 環境・緑化応援団～あさひ多目的センター運営協議会・旭フラワーメイト～

3 研究内容

(1) 「自然」とのふれあい



〔マリーゴールドの栽培〕



〔米の栽培〕



(2) 「人」とのふれあい



〔学校応援団
コーディネーター会議〕



〔あいさつ運動〕

(3) 「本」とのふれあい



〔読み語りの会「あおぞら」〕



(4)「家族」とのふれあい



〔生活標語カレンダー〕



〔一人一実践の取組〕

(5)「地域」とのふれあい



〔見守り活動〕

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

本校の全国学力・学習状況調査の平均正答率（県平均正答率との差）の推移を見ると、県との差は平成26年度に比べて、平成27年度は国語で10.8%、算数で8.2%差が縮まった。また、平成27年度に比べて、平成28年度は国語で2.3%、算数で2.1%差が縮まってきており、平成28年度国語Aについては、県平均を1.7%上回り、県の平均正答率に、さらに、近づいた。

長年に渡る学校・家庭・地域の連携により、児童一人一人に豊かな体験活動を保証することによって、一人一人が自己有用感を得ることができる。そこに、落ち着いた学習環境が成立し、学力に反映される。本校の児童は決して学力が低いわけではなく、全国学力・学習状況調査で言えば、問題の形式に慣れていなかったことが考えられる。この数年、朝学習の時間を使って、様々な学習に取り組んできた。ここにきて、成果が表れてきたと考えられる。特色ある学校づくりとは、決して他校と異なる教育や新しい教育実践を目指したものではない。その学校の持つ良き校風や伝統、地域性、児童の実態や願いを生かした実践を地道に積み重ねていくことこそ、その本質であると考えられる。

(2) 課題

ア 後継者の確保と継続性

まず、豊かな体験活動を保障するということは、単年度の計画では継続が難しいという課題がある。例えば、平成29年度の一連の米作り活動は、もうすでに動き始めている。ところが、来年度になって学校の方針が変わり、米作りはしないということになれば、それまでの活動が生かされなくなってしまう。数年後も学校応援団活動が継続できることが重要である。

次に、協力してくれる人材の確保の課題がある。本校に協力いただいている学校応援団の方々も、なかなか後継者が見つからず課題となっている。

イ 学習支援体制の拡充

落ち着いた学習環境の整備については、全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の状況を見ると、成果が表れてきている。更なる学力向上のためには、より多くの地域の方々の協力を得る必要がある。

今後、放課後等の時間を活用し、ボランティアの方に補習していただけないかと考えており、学校応援団コーディネーター会議で実現に向けた話し合いを進めている。

ウ その他

マリーゴールドの栽培や米作りについては、自然体験活動であるため、うまく成長しないと当初計画した活動ができないことも考えられる。農業経験豊かな方々に指導をいただきながら、取り組んでいく必要がある。

秩父市 研究指定校：秩父市立荒川西小学校

研究テーマ 家庭・地域・学校が一体となった学習活動、学校行事の充実

1 研究のねらい

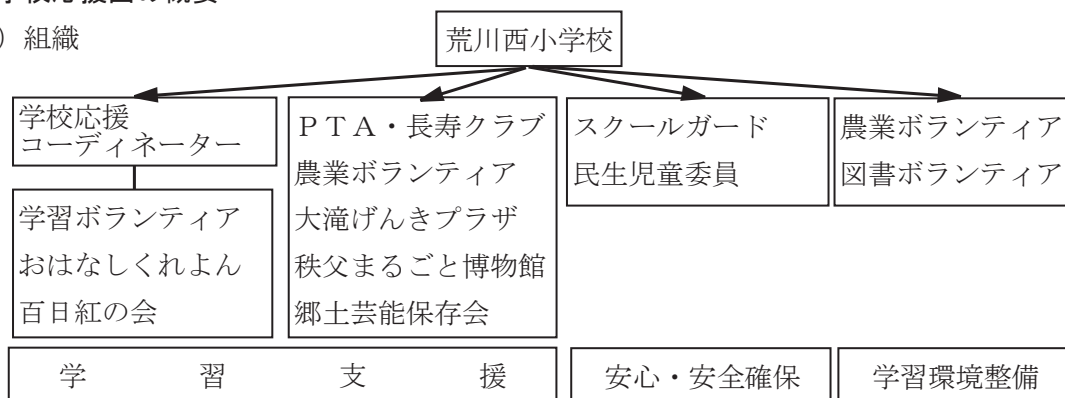
本校の取組では、児童一人一人の学力の向上を図るため、ねらいを「学び合いを通して、思考力・判断力・表現力を高めること」とした。そのために、「①自力での解決ができるよう基礎学力の定着、②自分の考えを伝え合えるよう言語活動の充実、③『ひと・もの・こと』とのふれあいなど、体験活動を通じた豊かな心が育成できるよう体験活動の充実」の三つを、達成のための手立てと考えた。

しかし、山間部の小規模校ということもあり、学校だけでは対応し切れない面も多いため、学校、家庭、地域が一体となり、児童への支援体制を整え、充実させていくことを本研究のテーマとした。



2 学校応援団の概要

(1) 組織



(2) 活動

ア 学習支援

学習の補助やゲストティーチャーとして、学習活動の支援を行う。

イ 安心・安全確保

安全な登下校のための見守りを行う。

ウ 学習環境整備

学校農園（畑）の耕作や図書室書籍の補修・整理を行う。



3 研究内容（学習支援の取組）

(1) 基礎学力の定着（サマースクール・川の学習）

○サマースクール

夏季休業日の前半に、今年度は8日間の勉強会を実施した。支援者の確保や当日の割り振りなどはコーディネーターが行い、保護者や地域の方、卒業生（中学



生・大学生)、教員が分担して宿題等の支援を行った。

(2) 言語活動の充実 (お話会)

○お話会 (読み聞かせ)

地域の読み聞かせボランティア団体「おはなしくれよん」による月2回の業前の読み聞かせと、各学年年間1回、国語の時間を使って、お話会ロングを行っている。様々な物語にふれるよい機会となっている。



(3) 体験活動の充実 (中津川いも栽培・キャンプファイア・西小まつり・

雅楽鑑賞体験教室・郷土芸能体験教室・福祉施設訪問)

○西小まつり

学校行事として行っているが、学校と保護者や長寿クラブ、郷土芸能保存会、地域の方々が一緒になって作り上げる行事となっている。

- ・保護者に教えてもらいながら、郷土料理の「おつきりこみ」や「たらし焼き」などをつくる。
- ・長寿クラブの方の指導で「つきでっぼう」や「お手玉」「わらぞうり」をつくる。
- ・地域の伝統芸能「熊野神社の獅子舞」、「白久の串人形」、「神明社の神楽」のうち、毎年1つを輪番で公演してもらい、鑑賞する。
- ・児童が準備したお化け屋敷や迷路などのアトラクションで、地域の方や保護者に楽しんでもらう。このような地域と一体となった取組が、38年間の長い間、続いている。



4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 学校応援団による体験活動により、教室での学習が五感を生かした学習へとつながり、学習を深めることができた。

イ 地域の人とコミュニケーションを図ったり、行事や特産物を知ったりすることで地域をより身近なものとして感じられるようになり、地域の「ひと、もの、こと」を思う気持ちが高まった。その気持ちが、地域の人に支援される活動から、西小まつりや福祉施設訪問などを通じて地域へ貢献しようとする活動になった。

ウ キャンプファイアでは、若い応援団員が増えた。コーディネーターの話では、小学生の頃、大人が楽しそうに指導してくれた姿を見て、自分もやってみたくなったという小学生のときの体験が、大人になったときの支援につながっている。

(2) 課題

学習や活動の共有化が図れていないことから、教職員の異動で活動が変わったり、内容が分からなくなったりすることがある。それぞれの活動を学習計画にしっかりと位置付け、活動内容、ねらいをより明確にし、学校応援団との共有化を図る努力が必要である。また、授業への支援をどのように活用していくかについて、担任がねらいをしっかりと把握し、魅力ある授業となるよう工夫していきたい。

久喜市 研究指定校：久喜市立清久小学校

研究テーマ 地域の教育資源を活用した豊かな教育活動の展開

1 研究のねらい

体験的・問題解決的な教育活動の開発や、新たな人材・地域教材の発掘・導入を行うことにより、児童の学習意欲の向上と確かな学力の定着を目指す。

2 学校応援団の概要

- (1) 指導計画への位置付け
 - ・授業支援者との協働授業
 - ・地域の伝承文化と施設を活用した授業
- (2) 教育活動の工夫改善並びに教育資源の開発と発掘
 - ・体験的、問題解決的な教育活動の開発
 - ・新たな人材・地域教材の発掘
- (3) 学校と地域の連携強化
 - ・双方向の働きかけと交流

3 研究内容

(1) 学校経営・学校運営への位置付け

経営方針、目指す教師像、重点・努力点のそれぞれに、「地域の教育力の導入、地域への貢献活動の実践」「地域と連携して子供を育てようとする意識を持つ教師」「地域人材の活用や教材の開発・導入を図る」等を柱の一つとして位置付けている。

(2) 指導計画の位置付け

「地域連携プラン」を作成し、学校行事や各学年の地域教材との関わりを月別一覧表にまとめている。毎年成果と課題を明らかにし、新しい取組の開発をしている。また、「各学年の年間指導計画」にも明記し、計画的に協力を得ながら活動している。

(3) 各学年の取組

ア お茶作り（1年生・生活科）

地域の方に植えていただいた200本のお茶の木を育て、4月に婦人会の方や保護者と一緒に新芽を摘み、蒸して揉んでお茶にした。子供たちは苦労しながら出来上がったお茶を「美味しい」と味わっていた。



〔1年生のお茶作り〕

イ 梨農家見学（3年生・社会科）

受粉・摘果と収穫を見学した。収穫の時には、種類の異なる梨の食べ比べをさせていただいた。梨栽培の苦労や梨の生長を楽しみにする気持ちを感じとれた。

ウ 清久今昔物語（4年生・総合的な学習の時間）

歴史ある戸賀崎練武道場や洗心洞高木弓道場を訪問し、実際に剣道や弓道の立ち振舞いを見せていただき、作法や礼儀を体験を通して学ばせていただいた。

エ お米炊き（5年生・家庭科、林間学校）

ボーイスカウトの方に協力していただき飯ごう炊さんを体験した。塩むすびに「美味しい」の歓声が聞かれた。林間学校の飯ごう炊さんで、その成果を発揮した。

オ 伝統文化体験（6年生・社会科、修学旅行）

西公民館の和室で、婦人会の方から茶道を、地域にある寺で坐禅の体験を行った。それらを生かして修学旅行では鎌倉「円覚寺」での坐禅を体験してきた。

(4) 行事等の取組

ア 第15回きよく大運動会（地域合同運動会）

子供と地域の人と一緒に力を合わせて競うことができる種目や応援合戦で盛り上がっている。



【第15回きよく大運動会】

イ 里神楽の練習・発表

3、4年生の運動会種目から興味をもった1～6年生の子供たちが集まって、地域の方に来ていただいて練習し、地域の催しに参加している。

ウ 学校祭

午前中は縦割り班での出し物、お昼は婦人会にカレーライスを、やろう会にうどんを作っていた。午後は、西公民館主催の「ふれあい鑑賞会」で、久喜南中学校の吹奏楽部や久喜北陽高校のチアリーディング部の演技を鑑賞した。

エ 避難訓練・防災訓練

防災の日に、コミュニティ協議会の防災訓練と連携し、避難所開設訓練に参加するなど、自分たちにできることを考える機会となった。



【防災訓練で間仕切りを設置】

(5) 地域活動への参加

清久地区の「さくらまつり」や「れんげまつり」で鼓笛演奏を披露したり、「長寿のつどい」や「西公民館まつり」などで合奏や歌、作文、里神楽を発表したり、年2回行われる公民館の環境整備などに参加したりしている。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 地域教材の活用を図ることで、学習への興味・関心を高めるとともに、体験を通じた活動により、学習内容の理解・定着を深めることができた。

イ 学校と地域の協力・協働の機運が高まり、教育環境の整備も進んでいる。

ウ 学校も地域の一員として、教員も地域の催し物に参加し、地域住民とコミュニケーションを図り、共通理解を深めている。

(2) 課題

ア 教育計画や地域連携プランを見直し、学校とコーディネーターの点と点の結び付きから組織的な面と面での結び付きに強めていく。

イ 教育活動の取組を、積極的に情報発信していく。

ウ コーディネーターの後継者を育てるために、学校と関係を深め、一緒に活動していく中で、コーディネーターの役割や楽しさを広く伝えていく。

平成28年度
「学校応援団」「放課後子供教室」
実践事例集
埼玉県教育委員会

平成29年3月発行

編集 埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6976

FAX 048-830-4962

E-mail a6975@pref.saitama.lg.jp

きすな
生きる力を育て絆を深める埼玉教育



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」